愛國婦人會機關

愛國婦人

毎月五日二十日發行

一部金六錢　半年分金參拾六錢　全國無遞送料
廣告料一行六拾錢
本號全部禁轉載
東京麹町區（牛ヶ淵公園）愛國婦人發行所
發行兼印刷人　山澤俊夫
編輯人　手島益雄

愛國婦人會の目的は遺族及癈兵を救護するにあり

社説

理想の婦人

人の働きには、何かの目的なかるべからず、車夫が車を引くは、米の代を得て、一家を養はんが爲めなり、かうやつて走れば、飢が凌げて妻子も喜ぶと思へば、足は切れても、樂みなり、家内がマッチの箱を張るも、同じ事にて、目的があればこそ、なり振りも構はず働くなれ。一日一時一事一業に於て尙然り、況んや長き一生涯をや。何もせずにぶら〳〵暮して居るといふことは、波間に漂ふ海月はいざ知らず、人間には最大の恥辱なり。否海月すらも、斷へず伸縮して、自ら食を求めつゝあるなり。

されば一生涯を如何に暮らすべきか、男子には男子の理想あり、婦人には婦人の理想あるべき筈なり。理想とは、今は手が屆かずとも、奮發すれば、實際我が物となし得る見込ある目的をいふなり。見込なき目的は、理想にあらずして、空想なり、水中に月を捉へんとするが如きはこれなり。世にはこの理想と空想とを混同せるもの多し、もし空想を目的とすれば、何時かは失望の時來るべし、理想を追ふものは、これに達すれば勿論、途中まで來りても來たゞけの事はありて、決して損となることなし。生活の理想を有して、勉强する人は、仕合せな人なり、空想を追ふ人は、氣の毒な人なり、空想さへもなくてぶら〳〵て暮す人は、戸籍にはあるも、實は人て候とはいへぬなり。

理想は努力の目的物なり、理想は頭の中にて、良き性質を集め合して、新たに作り出せるものにても可し、されども理想とすべき人間が、現在か過去かにありて、あの人のやうにならんとて勵むことを得ば、これほど有効にして活きたる理想はなかるべし。修身にても、たゞ理窟を説くよりは、實例を擧ぐる方利き目ある、同じ譯なり。

然らば如何なる人を理想とすべきか、それは人々の勝手なり、しかし一ツの事は是非備へざるべからず、理想の人は金持ならざるも可なり、爵位を有せざるも可なり、美服を纏はざるも可なり、然れども上品の人ならざるべからず、品格は人間の生命なり、もしその人にして卑劣、下品、下等ならんか、錦も黃金も一向に駄目なり、否錦を纏ひ、黃金を鏤めるだけ、益々醜さが引き立つなり。陋巷にあるも、田野にあるも、理想の人たるを妨げず、然れども上品の人ならざるべからず、理想の人は、形式的に三拜九拜する人を有せざるべし、然れども精神的に頭を屈むる人を有するなり。見た所從者は連れざるべし、然れども精神上には大勢の伴を連れたる人なり。

理想の人は、また正直ならざるべからず。正直の一事に缺くれば、如何に他の事に成効するも、要するに失敗の人なり、正直ならば、物質上の失敗はありとも、理想の人たるに差支なし、されど正直が理想の唯一の要件にあらず、正直一方は、正直の點だけには理想たらんも、理想の全體にあらず、理想の人は正直の上に、働きなかるべからず。世と絶ち、人と遠かりて、冷眼他を瞰下して、獨りよがりて居る消極的の人は、理想とするの價値なきなり、理想の人は、社會にまざりて、人間の爲に活潑に立ち働くの人たらざるべからず。

要するに理想の人は、品格を第一として、正直にして、よく働く人たるべし、これだけは是非必要なり、その他は勝手に良き性質を注文すべし。また理想は成るべく同性の人を取るべし。女子が男子を理想とし、男子が女子を理想としてならぬとにはあらねど、適切にあらず、矢張女子は女子を理想とすべし。理想の人といはゞ、有名な人に限るやう思ふは、誤りなり、斯る有名な人を理想とせりといはねば、恥の如く考ふるは、間違なり。理想に外見方便は無用なり。大工のおばさんにても、立派な理想なり、肥桶を擔ぐ者の家内にも、理想とすべき婦人はあるべし。理想は恥かしさうに云ふべきものにあらず、理想は我が理想なり、人の理想にあらず、理想は我が精神上の女王なり、尊崇の對象なり。恥しく思ふが如き薄弱なる理想を有すること勿れ、理想は我が誇りなり、勇みなり、信念なり、力なるにあらずや。

我等は頃日「崇拜する現代人物」なる題下に、廣く愛讀諸姉の返答を求めたり、而して、僅かに三人の返答を得たるを憾とす、東郷大將の如き、男子を擧げたる人あるも、そは例外と見做すべし。諸姉は古今東西を通じて、婦人の中に尊崇すべき人物を一人も有せられざるか、或は之を告白することを恥ぢとせられたるか、何れにしても、我等は此度の結果を以て、滿足なりとする能はず。もし始めより平氣にて、一向理想の婦人など求むるに意なかりしとすれば、そは實に困つたことなれば、今より心掛けらるべし、蓋し理想の婦人は、諸姉が一生の働きに目標を與ふるものなればなり。

至樂

「愛國婦人」に社説を書くは、我が一の務なり、如何なる事を説かんかとは、月を通しての我が心配なり、たとへば雨催ひにて、降らうか降るまいかの續ける後、いよ〳〵降りとなるが如きものなり、していよ〳〵明日編輯締切りとなるの前夜、宵に暫く寢て、一時頃より起き出て、筆を執るを常とす、夜の靜肅にあらざれば考へも出ず、氣も乘らざればなり、妻は夫の傍に、子は親の傍にあるに、安心して、何事も打忘れて、他愛なく寢て居るなり、寢ねよ〳〵、妻子を養ふは我が務なり、よく彼等に滿腹を與へ、安眠を與ふれば、我が務は盡されたるなり。妻子の安らかに眠むれるを見ながら、筆を走らすとき、我は實に人生の至樂を感ぜずんばあらず。

こゝに出せる圖は、ホッキー Hockeg といふ遊戲にして、英國にて盛に行はれ、近來は米國にも輸入せられたり。その法、長さ三百ヤード、幅三十ヤードの長方形の平坦なる地面にて、長方形の短邊の中央に相向ふて城門を設け、十一人つゝの敵相對して、長さ三尺二寸許の尖きの少し曲りたる長刀なりの棒にて一箇の固き球を打ちて、地面をすべらせ、敵の城門に打入れる遊戲にて、今日のフードボールはこれより出てたるものなりといふ。中々活潑にして汗の出る遊戲にして、英國にては男子も男子なれど、婦人の間にも廣く行はれ、女學校の生徒も好んで之を行ひ、對校競技をもなす、我が國にては婦人の遊戲といへば、舞踏が盛にて、テニスも行はるれど、場所廣く、全力を盡して馳驅するが如く遊戲を見ず、實際日本の女學校ほど舞踏の行はるゝ所は、西洋の女學校にもなく、何のことか分らぬほどなり。それよりは、今少し力の入れる、見答へある運動らしき運動を奬勵すべし、毎度いふことなれど婦人の身體とて豆腐にあらず、鍛へれば鍛へられるものなり。踊りの上手なるよりは、力の入つた確乎した體軀がほしきなり。それにはホッキー位行ふやうならざるべからず。先般始めて慶應義塾にて行ひたりとの事なるが、女學校にも近く流行らせたきものなり。實際運動ほど氣分のサッパリして愉快なものはあらず、運動は人生の一享樂にして、その樂みを知らざるものは人生の一部を損したるものといふべし。雀百まで踊りを忘れず、人も何時迄もよく運動すべし。追々春さきにもなりたれば、これから野外に出て、冬の蟄居したる欝氣を大に晴らさゞるべからず。

電話番町五百二十番　◎本號には仁尾評議員渡邊鶴田二幹事の肖像を寫眞版附録とす

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

論叢

婦人の社會に於ける位置

男爵　末松謙澄

婦人の社會に於ける位置の問題に付いては、風俗慣習の異なる西洋と我が日本とを比較して論ずることは難い、西洋人が東洋に對する從來の觀察によると、東洋婦人は社會上奴隷の如く取扱はれて居て、世間に出ることさへも許されて居ない、さうして日本も其一部であると考へて居るものがある、併しながら日本は東洋の内でも古來より歷史を異にして居る、勿論佛教の感化を受けた爲めに高野山には女人禁制の制札が建てられてあつたが、一般には日本の婦人は自由であつた、故に後世三百年以來儒道の盛んになるに連れ、又同時に武士道の盛んなるに連れて、支那のそれに近いて來た、日本の婦人は昔は自由であつたが、此自由時代は其弊害も甚しいものであつた、所謂平安朝時代は婦人の權利は最も強かつた時代であるが、社會の風俗は其頃が一番紊れて居つたことは事實である、併し此時代は何も婦人に自由を與へたから風俗が紊れたと云ふ次第でもあるまい、社會の風俗であつて、今日を以てこれを許す可きではない、今日に於ては婦人に相當なる交際上の自由を與へることが適當であると考へる、併しながら其間に於ては餘程の注意を要する、西洋諸國を見ても其國々に依つて其風俗慣習を異にして居るが、婦人に對しては米國が一番權利とか自由とかを多く與へられて、社會に於ける婦人の位置が高いやうである、英佛は自分も十分承知して居る、成る程彼の國の婦人には交際の自由はある、併し日本人が斯うてあらうと想像して居る點は彼の國には無いのである、恰も明治の初年に所謂自由とか獨立とか云ふ言葉が這入つて來て、社會の組織を變更しやうとかゝつて居たが、其言葉の解釋が以前と今日とては異なつて居る、其當時ては自由とは勝手放題の事が出來ることと心得、社會の秩序も何も認めなかつた程てあるが、今日ては自由と云ふ定義も判然として獨立と云ふことも明瞭になつて來たが、今日の婦人問題に於ても自由獨立の解釋を履き違へないやうにすることが必要てある、早い實例が英佛等では婦人に自由が與へてあると云ふても、良家の女子が獨りて勝手に外に出て歩行するやうなことは決してない、如何はしい時間、如何はしい場所に於ては良家の女子の姿を見ることは無い、然るに日本では自由と云へば男子と同一の自由があるかの如く心得へて、間違つたる擧動を爲すものがありはしないか、彼の國では人込の處に娘が出るには必ず「シヤペロン」日本に譯せば監督者が附いて居る、若い細君なれば必ず亭主に伴はれて居ると云ふ有樣である、日本では此監督が甚だ薄いやうである、又妙齡の女子が教育を受ける方法も異なつて居る、日本の如く監督者もない下宿屋から、通學するが如きことは英佛にては未だ嘗て見ぬ處である、必ず家庭的の教育場に於いて教育を受けることになつて居る、これ等も深く注意を要することゝ思ふ。

日本に於ける男女の關係は武士道に依つて餘程支配されることゝなつた、武士道に於ては惰弱であるとか、みやびやかであるとか云ふことは甚だこれを嫌ふたのである、從つて婦女と公然交際することを憚り、男女の愛の爲に一身を捧ぐるが如きことは武士道の恥辱となし、婦人に對しては成るべく冷かな性質を養ふやうになつたのである、然るに歐洲の騎士道は或る點は日本の武士道と一致して居るが、只異なる點は弱者を助けると云ふ點よりして、婦人を尊敬することてある、其結果愛情を全うすることは一の勇氣てあると考へ、愛の爲に他のものを犧牲とすることになつた、一言せば然る可からざる點に愛情を強くし、其事柄が他の義理を缺いても愛を全うすることが道理てあると考へた、故に婦人の前に平身低頭することを恥とせないのみか、これを人に見らるゝことが一の勇ましき雄々しき行ひと感じ、其風俗が今日まで殘つて居る、佛國の如きは上流社會に於ける尊敬す可き婦人には男子が其婦人の手に接吻することがある、これを以て恥とせず禮義となつて居る、これが騎士道的であると稱賛されて居るが、心あるものは斯樣なる風俗は陋風であると排斥しながら、倘ほ當今でも行はれて居る、我國と彼國とは思想上に斯くの如く隔りがあるが、これを眞似ることゝなると、惡事の跡を追ふことになるから、大に注意せねばならぬことと思ふ。

原稿　來る十二日締切
櫻花號（廿日發刊）
廣告　來る十四日締切

過度時代に於ける女子の教育は大に注意を要する、新文明の爲めに未だ熟して居ない婦人を迷はすが如きことがあつてはならぬ、一般の社會が進まず、一般の風俗が矯正されぬ時代に於ては過ちを生じ易い、今日では女の學問をする方法に餘程六ケ敷い處がある、文學の方面に於ても、古文學になると其讀物に完全なものがない、平安時代の物語類は其時代の社會の風俗を寫したもので、如何はしい事柄が多い、これを歷史として研究するは善いが、教育書としては不適當のものである、惡しき點や惡しき文字を引拔きて敎へることとすれば、是れ又完全なことが得られない、風景等を敍した丈なればよいが、人情風俗を寫した部分を教育書とすることはよろしくないと思ふ、故に教育する方法にも注意して、よき工風を計ることが必要てある。

家庭の娛樂

東京市長　尾崎行雄

夫婦は其樂しみに於ても相一致しなくてはならぬ、夫の樂しむ所は妻も又これを樂しみ、妻の樂しむ所は夫も又これを樂しむと云ふ風にしなければ、眞に圓滿なる家庭を營むことは出來ぬ、斯樣になるには夫婦相互いに其趣味の點を讓り合つて、調和を計ることが必要である、今日の日本に於ては男女其好みを異にし、男子に於ては終局まで押し詰めて見ると、好みが藝者に戲れるとか、酒を呑むとか云ふことになつて居り、又た女子に於ては其終局まで聞き詰めて見ると、芝居が見たいと云ふことになつて居る、故に家庭の圓滿を缺ぐ基を作るのは、夫婦が娛樂の標準を異にする所から起つて來るのが多いやうてある、元來夫婦が長く連れ添ふて居ると、自然に同化されて其趣味が同一になるものである、日本に於ける早婚は、素より弊害も多いに相違ないが、其利益にも又著しいものがある、則ち男女の思想が未だ固定しない內に結婚する爲めに同化し易く、精神上夫婦一致することが出來る、女子は男子の美點を認識してこれに引付けられ、男子も又女子の美點に感化され、相融和してこゝに夫婦一體の精神が形作られ、夫の好む所妻も又これを好むと云ふやうなり、言語を發せざるも其意思を知覺するまでの程度に達することが出來る、故に日本の婚姻の如く、互に男女の性質を知らずして容易に婚姻しても、其割合に離婚などが尠く、能く和合して行けるのは、全く同化力に富んで居る年少時代に婚姻をした爲めと思はれる、これに反して西洋では、婚姻するになか〱念を入れ、交際にも互に結んで愈々となつた上て結婚するにも拘らず破鏡の歎の多いのは、畢竟晩婚てある爲に、雙方の思想が固まつて、意思の同化が計られぬ結果であらふと思ふ、扨て家庭の娛樂としては如何なる種類のものを選ぶべきかと云ふに、東京市の如き市街地に於ては野外の娛樂を取ることが必要てある、女小供を引連れて野外に出て遊ぶと、其喜びは非常なものである、この一事を見ても野外運動の善いことが知れる、昔から野外運動を奬勵する方法は色々あつて、霞棚引く春の野には小松引てあるとか、嫁菜摘みであるとか、初午詣てあるとか、神の力を借りてまて人を野外に誘い出す工風につとめて居るのであるが、これからの日本に於ては只漫然として野外散歩と云ふことよりは、學術研究の目的を以て野に出ると云ふことが必要である、例へば野花採集昆蟲採集鑛物採集と云ふが如く、草花一つ折るにも只美しいからと云ふ點てなく、植物學上何科に屬するものであつて、何花に如何なる點がよく類似して居るとか云ふやうに研究的態度を以てこれを見れば非常な興味もあり、又世を益することにもなるのである、實物について子供にもこれを敎へるやうになれば、自然の敎化ともなると思ふ、其他室内遊技としては日本ては碁、將棊等が行はれて居るが、何れも腦を使ふ仕事てあつて、腦に餘裕のある人には適當なか知らないが、これからの社會は、官吏ても實業家ても、腦一杯に使はねばならぬ時代となつて居るから、遊ぶ時間に於てまて腦を使ふが如きことは如何てあらうかと思はれる、新式の遊技として男女共に遊ぶに適當なるはロンテニス等てあらうなと思ふ。

▲舌代　短文、和歌、俳句、新體詩當選者にして未だ繪ハガキを受領せざる諸姉は至急にお申越し下さい

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

女教師

西村醉夢

私がさる高等女學校の業を卒へて歸郷したのは丁度この頃でした。野深い〳〵山から流れ出る春の香に、森も彩光る露に包まれて、美しい微笑を斷えずこぼし、醉うてもゐるかのやうに長閑にうらゝかな日でした。綠に萠ゆる草は、柔かい陽の光りにいきれ、佐保姫のやうな優しい息氣をしてゐる。白い花、青い花、そして紅の燃ゆるが如き花やが、そこはかとなく野に一面咲きこぼれ、野は彩衣を敷いたやうに見える。と月を碎いて流すのかとも思はれるいさゝ小川が、若綠の森を出て、青い草の香をうけ、花野を細く流れてゐる。時には摘草する少女子が蒲英公などの花片をひら〳〵とこぼすこともあるので、何とも形容し難い程美しい。元より片田舍の小川にまで名のあらう筈もないから私共は「美しい川」と云ふ名を付て、水の多い日には笹の舟など作へて流したともある、實に追懷多い川なので、その川に添ふて一條の細い徑が村に通じてゐる、が人里離れた田舍のことですから、徑には車の轍の跡や、靴の跡などを見ることが出來ません。只だもう野良歸りの若い男女や、牛飼ふ童が朝夕家路を辿るだけなので、文明の空氣を呼吸したかとも思はれる人には山本と云ふ新任の巡査と小學校の敎員ばかりてある。

私は今、太古その儘な純朴なる村へ歸るのてある。村の人の耳には東京と云ふ地名てさへ一種美妙な響を以て聞え、感動に乏しい彼等の胸にも此時ばかりは、一味の情想が青波をうつのだ。其のどんよりした眼の色にも憧憬の影が泊る位ゐだから、東京て五年の長い間勉强した私が大學者てもあるかの樣に感じられるのは人情の自然である。その大學者、神の如く全智全能と心得られたる大學者の私が、而も錦衣を飾つて故郷に歸るのですもの歡迎すなと云つてもせない理由には行きません。私が愈々歸國すると云ふその日には村長樣を初め親族の人や村の有力な方ばかり十何名と云ふ人々が一里餘りも迎へに出てゐる。私はそれ等の人々に取り圍れて、溫い心地快い春風に送られながら、美しいこの川、追懷多いこの徑を歸りました、その道すがら近い人は鍬をうち捨てて私の側に來、きよときよとした、丁度鳩が銃の音にても驚かされた時にする樣な眼色をして。

「お孃樣、好本のお孃樣、お前樣よく歸らしやつただ」

と云つてゐる、私も丁寧に辭儀をし、そして彼等の勞苦を勦つてやると、もう感喜の涙を、銅色の頰にぼたり〳〵と傳はらしてゐる。遠の者は頰冠りをとり、手を振つて、ぺこ〳〵お辭儀をする人もある。家に着くと、今迄で門の側にゐた村の誰れ彼れが雪崩れ込む、その中には覺えのある顏も見え、又思出せない若い女の顏もある。其れ等の中には大人になつた昔の小供もゐやうし、他村から嫁に來た若い村少女もゐるのであらう。

それから卒業祝の小宴が始ると、ほんのり櫻色に頰を染めた村長樣が、甘さうに口を甜づりながら。

「どうだかね好本君、私が學校にな一人女の敎師が欲しいと思つてゐたゞ、君の家の花樣は學問も深し、大相發明でござらつしやるから、學校のへ出てもれへたへと思ふだ、一つ贇成のをしてくれめへかね」

父はもう非常に喜んで、王冠をでも戴いた樣に、無上の光榮として一も二もなく承諾して了ひました。無爲な生活は反つて苦痛の多いものですから、父のすゝめる儘に從つて、歸郷後一週間ばかりすると、昨日迄の學生が敎鞭を持ち可愛い無邪氣な眼を一身に集めて敎壇へ立つてとゝなりました。

月日の立つのは早いもので、夢か幻のうつゝの間にはや一年の歲月を田舍の小學敎師として過しました。都は春も老けて、上野の櫻も散つたてあらうと思ふ四月のとある日、女生徒の一組に唱歌を敎へ、今日の受持學課も終つたから、歸り仕度をして居ますと、名刺を通ずる人がある。何心なく小使から受取つて見ますと忘れもせん、懷しい〳〵同窓の安子樣です、私の胸は喜びに血がをどりました。

私は、若葉の軟かい生々〳〵した香が心に泌みるやうな並木路を親しい安子樣と手をとりながら、四方八方の追懷談に耽りつゝ宅へ歸つてきます。鳩の樣に優しい、村の小供の樣に愛くるしい、春の溫い風が私共を見舞つてくれます。摺り合ふ二人の鬢のほつれ毛がそつと互の頰にさはる、私はうつとりして、夢に夢見る心地で歩んでゐますと、袖の下から

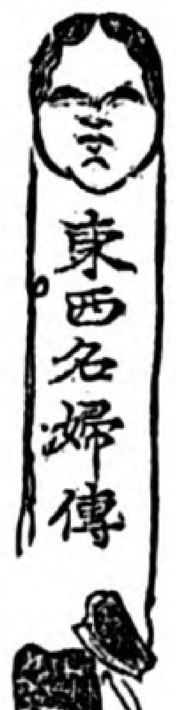
「先生ッ」

溢るゝばかり稚氣ない微笑を湛えた可愛い顏が一つ出ると、右左から柔かい小さい手が私の手にからみ付きます、この可愛い、神樣よりも可愛いこの兒、私はもう彼の樂しい天國へでも上つた心になり、生徒が歌ふ唱歌に合して私も歌ひました。ふと氣が附いて安子樣を顧見ると、安子樣は黑眼勝ちの光りある瞳を此方に向け、美しいお顏に淸い表情を湛えて見てゐます。

「好本さん、貴女ほんとに幸福ね」

「安子樣、ゐらつしやいな」

私共は安子樣と生徒と四五人で唱歌を歌ひながら、菫や蒲英公の咲きみだる、村の路を歸りました。その夜枕を並べて二人は學校のこと、同窓の友のこと、安子樣の如く專門の學を修め度いこと、私の樣に平和な愉快な境遇に居たいこと、など語り勞れて寢に附いたのですが、今宵二人の夢に入るものは何てしやうか。



アンネンスカヤ女史

人見東明

「弱き者よ汝の名は女なり」げに纎弱き者は女だ。花の如く、香の如く、美しく優しいけれども弱き者は女である。然れどこの見解を以つて總ての女性を評し去るのは餘まりに愼重なる體度であるまい。吾等は今この弱きものをして弱からしめず、强を誇る男性をして顏色なからしめた閨秀作家に就て語らう。

その人は曾て我が國と干戈を交へた露西亞の文壇に一時重をなしたアンネンスカヤ女史である。女史は十九世紀末葉に出てたる閨秀作家て、女性の爲め萬丈の氣焰を吐いた、女史の著作としては「ゴーゴリ傳」が最も有名てある、女史は幼少の頃から豐かなる趣味性を持てゐた、藝術は其の最も愛好する所で常に文學書を手からはなさなかつた。その勸勉なる事實に嘆稱に値する、然れば一時一分たりと雖も時間を空費するなく孜々として撓むことを知らない。唯に自國文壇の作品ばかりでなく廣く西歐諸國の名作迄でも讀破し盡して、文學に就いてはなかなか造詣が深い。その著「ゴーゴリ傳」の如きも、生立ちに、創作に、思想に、生活にはた戀愛より晩年に至る迄て、この大詩人をあらゆる方面より觀察し詳論して殆ど餘蘊ないのてある。

ゴーゴリは露國文壇の鼻祖で、又恩師である。昔日に於ては見る影だもなかりし露國の文學が今日の如き黃金時代をなしたのはツルゲーネフ、トルストイ、ゴルキーなどの力の大なる點にもあらうが、其の水源を決して今日の如き大流を生ぜしめたのは其の恩をゴーゴリに歸さなければならぬ。ゴーゴリは露國文壇に忘るべからざる師である。然れば其の影響する所も容易てない。

云ふまでもなく、傳記にはその人に隨伴する事件及び影響する所を網羅せなければならぬ、而もアンネンスカヤ女史は好く此の大事業を完成した。女史の功績や實に大なりと謂ふべし、之れをしも女性の爲めに吐いたる萬丈の氣焰と云はずして可らうか。ゴーゴリの傳を成したる者スミルノーヴスキー、ペツロフ氏等十指に充つ、而も女史の著は一頭地をぬけりと云ふに非ずや。茲に於てか花の如く香の如き女性の德は輝き出たのてある。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

家政

育兒の栞（上編）

ドクトル メヂチーネ 長井岩雄

▲育兒に就て一般の注意

余が述べんとする育兒法は衞生上に基き小兒を健全に保育せんとするものにして所謂體育なり、抑育兒に就ては日本は日本の習慣あり、歐洲は又歐洲の習慣ありて、小兒養育上にも見解を異にしたる點なきにしもあらねど、要するに小兒を健康に保育せんとする父母の企望は東西皆其心を一にす、想ふに西洋の育兒法とて悉く完全無缺と云ひがたし、況や日本の習慣は父母其兒を愛するの餘り、動もすれば愛の心餘りて却て其兒を軟虛になす事あるは從來識者が嘆ぜし處にして、余も亦小兒科に從事してより屢々目擊する處なり、誠に遺憾の至りにこそ。

禽獸すら尙子を愛す、況や人間に於てをや、呱々の啼聲を聽き、さてはその天眞爛漫たる愛兒の顏を見ては、誰か慈愛の情を起さゞらんや、さりながら愛の至情溢れて不知不識愛の淵に溺るゝことあるは、また人情の免れざる處なれば、世の慈母たる人尤も注意すべきことぞかし。

抑育兒の本旨は總て自然に任せて餘りに人爲を加へざるを良とす、例へば庭の草木を見よ、寒暑風雨の害を保護し、たゞ適度に培養すれば春夏秋冬の氣候に遇ひて自然に發育し、いつの間にか花咲き實を結ぶなり。

我育兒の上に於ても亦然り、父母は其兒を育つるに當りて、愛兒の衣食住とも度に過ぎざるやう注意すること尤も肝要なり、例へば健康なる子供に餘り多く重着させれば却て皮膚を弱くし、また不規則に始終飮食せしむれば胃腸を傷ひ、風雨寒暑を恐れて徒に室內にのみ蟄居せしむれば、發育を害して虛弱不活潑の兒となる、嗚呼親の子を思ひ、子の親を慕ふは實に自然の道にして、若し親子の情なきときは禽獸にも劣るなれど、思過ぎて迷ひに入るは、また人情の免れがたきことなり、古人も句あり

人の親の心はやみにあらねども　子をおもふみちに迷ひぬる哉

さても親の子に對する愛情は無限にして、神ならぬ人間の制し能はぬ場合もあれど、先づ靜に心を落附け、眞の愛てふことは我子を健全に養育するに在りてふことを心に誓ひをくべし。

諺に三つ子の癖は百までとやら、吾人は初生兒の時より衞生上の原則を守りて養育し、愛情の爲に不知不識軌道を逸せざるやう注意せざる可らず、さても子供は無心にして水の如く、一に親の心に隨ひ育つものなれば、日頃良き習慣を附くれば善き性質となり、惡しき習慣を附くれば惡しき性質となること、恰も水の方圓の器に隨ふが如し、されば日常の衣食住に於いても、皆父母の躾に從ふものにして、古人も習慣は第二の天性となると云へり、深く注意すべきことにこそ。

今弘く世の習慣を見るに、氣候溫和の時に生れたる子も、冬天嚴寒の時に生れたる子供も、一樣に多く着物を重ね、夜具を懸け、或は炬燵に寢かし、さては湯たんぽを入れて只暖めさへすれば、其子の爲めなりと思ふは大なる誤りにして、所謂情溢れて愛の不幸となり、いつしか其子を軟弱となすの習慣を附くるものなり、余想ふに兎角日本の習慣は、子供に重着をさせ、又は不規則に飮食物を與へて、動もすればその爲め營養を害し、天性强健の子も生後保育不注意の爲め終に虛弱となること少からず、之に反して西洋は寒暑風雨に堪ゆる習慣を附け、小兒に薄着させて、飮食物も極めて規則正しく與ふるを常とす、余は此事に就ては西洋の育兒法を良とす。

假令天性稍虛弱の子といへども、父母の注意と規則正しき養育法とを守れば、必ず健全に成長せん、世に子寶なければ一家團欒の樂みも溫ならず、また子ありても其子病身なれば父母の心を惱まし、子無きに若かず、されば子を健全に養育することは、實に父母の大なる務めにして、又大なる樂しみとも云はまし。たとひ百萬の遺產をうくるも、身體虛弱にては人世の樂みも薄く、また遺產なきときは尙更弱體にては世に立つすべもなかるべし、されば子供を强健に保育することは、何よりあつき親の慈悲とこそ云ふべけれ。

櫻花號發刊

吾が愛國婦人は讀者諸姉の深厚なる愛眷の下に、日に月に盛運に赴き、號を重ぬるに隨ふて發行部數の增刷を見るに至り、今春よりは殆ど昨年に倍するの部數を刷出して、而して猶ほ足らざるを慨む程となれり、於此乎、この盛運、大發展を祝すると同時に、聊か諸姉の愛顧に酬ゆる爲め、花笑ひ鳥謳ふ、來る**三月二十日發刊**の本紙を**櫻花號**と題し滿紙唯これ花！の盛觀を呈せんとす、而も微力思ひ餘りて其期する所の萬分の一をも盡し能はざらん事を恐る、されど本紙には**名流大家**の常に贊同して筆を執らるゝあり、數百の才媛の想を凝らし文を練りて應援せらるゝあれば、或は想外の好果を收め得て爛熳櫻花の夫れよりもかゞやかしき美觀を呈せん、尙ほ**閨秀六佳選**と題し、數百の寄稿家中より六人の才媛を選出し、各家に囑して其得意の文、詩、歌、句を掲げ、以て萬朶の花更らに美花を添へ、清興悠々春の水の如く、美裝霞棚引く春の山の如くなるべきを期す、乞ふ愛讀を給へ。

懸賞小說　かくれ襟卷

糸左近

「元日早々から良人を始とし、姑より子供、次々と家內中インフルエンザに罹りまして、私も過日まで臥つてゐましたやうな次第で御座います、其故誠にハヤ申譯も無い御無沙汰を致しました、――尙この通り咳嗽が出るんで御座いますもの、コホン、〳〵、〳〵、御免、コホン、コホン、下さいまし」

と、梅子夫人は、手巾を口に當てながら言つて、ブラシの襟卷を爲るのである。

「それはまア無々御難儀で御座いませう、何うか御遠慮無く御襟卷を……」

「御家は皆樣が御達者で何より御羨ましう御座います、貴女樣などは、姑よりもズット御年上で居らつしやりながら、恰で反對のやうな御元氣、姑も蔭でさう申して居ります、根岸の御隱居樣は、何時御見受け申しても、襟卷一つなさら無いで御步きなさる、若い者だつて迚も叶やしませんッて」

「尾いて上るやうですが、私も幼少な折は弱くて何時も〳〵寒冒を引きましたれど、或る老人から『隱れ襟卷』を敎はりましてから丈夫になつたので御座います」

「ヘーイ『隱れ襟卷』――面白い襟卷が御座いますね」

「貴女方もそれを爲さると宜しいです」

「何處に賣つて有りませうか、定めし高價なもので？」

「何處にでも有りまして、至極御安い物、それを仕慣れますと、ポッポと溫くて皆樣のして居らつしやるやうなショールやブラシは、迚も窮屈で出來ませぬ、のみならず彼樣な物を致しますと、癖になつて頸の皮膚は弱くなり、偶々人樣の前で取りますと、直ぐ寒冒を引き、揚句には咽喉加太兒などになります、其處に行くと『隱襟卷』は如何なる貴人の前でもしてゐられますから、此上無い重寶な物、何ぜ皆樣は爲さらぬやら」

「だつて今貴女はして居らつしやら無いぢやありませぬか」

老女は微笑みながら、急須の茶を移し、客にも進め、又己れも一椀啜つて、

「見えるやうぢや『隱襟卷』ではありませぬ、斯う申すと何だか天狗樣からでも敎はつたやうなれど、決して左樣な怪しい物では有りませぬ」

「何うか私にも敎へて下さいまし」

「敎へて上げますとも」

と、快よく話したは次の通りである。

「隱襟卷の仕方は每朝早く起き、極めて冷たき水に手拭を浸し、輕く搾つて頸の周り、殊に頤下を拭き擦り、而して其の手拭を幾度も〳〵洗つては拭き、拭いては洗ふのであります、尤も近頃冷水摩擦とて、全身を拭くこと流行しますれど、之は小兒や老人又は弱い方には宜しく無いのみならず、仲々言ふ可くして行はれ難いもの、所が頸の周り丈ならば、如何なる人にも容易に行はれます、又外出しようとする間際にも、之を致しますと、外の冷氣に吹かれましても、寒く感じませぬ、今日は三月五日段々陽氣に向ひますれば、早速之を御始めになつて、此の冬までには丈夫な襟卷を作られ、インフルエンザ何の物かはと云ふやうに御なり遊ばせ、私の一家は皆之を實行して居ます」

梅子夫人は意外の感に打たれてゐたが、即て、

「今日は實に尊い寶物を頂きました」

▲家政實驗談　文體を成るべく解し易くして續々御投稿あらむことを祈る

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人會編纂　佐藤正校閲　小笠原長生立案

愛國婦人會主唱者 奥村五百子詳傳

本會の主唱者たる奥村五百子女史の傳記は後世に傳へて世を益する所多かるへきを思ひ豫て同女史に關する材料を蒐集保管せられ居る小笠原子爵に協議し同氏の立案に由り今回本會に於て不遠詳傳を編纂發行せんとす此段豫告す

愛國婦人會

◎總裁殿下支部御巡臨　總裁殿下には本年開會すべき兵庫、岡山、愛知の三支部總會へ御巡臨あらせらるべき御豫定なり

◎評議員會日取　三月分評議員會日取は左の如し
三月廿七日(第四水曜日)午後二時

◎二月の評議員會　二月の評議員會は去月廿七日午後二時より本部樓上に於て開會せり出席者は理事近衛貞子、理事鍋島榮子、評議員板垣絹子、伊東美津子、小笠原秀子、山地謙子、高木富子、濱尾作子、鳩山春子、長岡芳子、宇佐川種子、豊島文子、佐藤猶子、古市幸子、三輪田眞佐子、仁杉歌子、渡邊稻子、藤井とく子、三井照子、三井五十子、關郁子、山脇房子、の諸氏出席し別項諸件を議し午後五時散會せり

◎總會に對する諸準備　總會の紀念品として各來會者に分配すべき物品は扇子又は風呂敷の二種の内何れか其一を採るべく評議員會の議題とせし處扇子說多數にて之に決定せり尙總會の翌日は茶話會を開き佩有功章者全員其他東京紳士等總計四千人を招待する事に決せり

◎遺族の招待會　五月上旬催さるゝ靖國神社祭典(戰死準戰死者主として病死者合祀祭)には例年の如く參拜遺族を招待して紀念品として總裁殿下御染筆卷軸及戰捷紀念地圖を贈與し尙ほ牛ヶ淵公園内に茶菓接待所を設け之を慰籍する件を評議員會に於て議決せり

◎會葬費決議　故奥村五百子死去につき其生前の功勞に酬ゆる爲め其會葬費として金千圓支出の義につき事後承諾を評議員會に於て與へたり

◎廣告燈設置費　本會の事業として設置せんとする廣告燈は其建設費用として三千百七拾圓を支出の件事後承諾を評議員會に於て與へたり

◎故玉井喜作氏追悼會　獨逸伯林に於て雜誌「東亞」を發行し本會に對しても多大の同情を寄せ數回の寄附金を募集し送付されたる玉井喜作氏は昨年九月廿五日伯林に於て客死し遺族たる妻子は去る二月二日歸朝したるを以て故玉井氏の友人は二十一日午後五時上野精養軒に於て追悼會を催したるにつき本會よりも大久保庶務課長を臨ましめ追悼の意を表したり同會にて猶親友相謀りて遺子の爲めに敎育資金を募集する事に定めたりと云ふ

各地支部狀況

▲山梨支部　同支部内西八代郡幹事部に於ては左の規約を設けて會員相互の懇親を結ぶ事となせり

第一條　本會は愛國婦人會有志會と稱し事務所を西八代郡役所内に置く

第二條　本會は會員間の交誼を厚ふし淑德を錬磨し婦人に適切必須なる智能を講ずるを以て目的とし愛國婦人會員中の有志を以て組織す

第三條　本會の目的を達する爲め左の事業をなす
一講話　二實習

第四條　講話は知名の士に囑托し又實習科目は會員多數の撰擇に任す

第五條　本會は五六七の月を除くの外每月一回開會す。但し時機に依り會日の變更を爲すことあるべし

第六條　本會の役員は愛國婦人會の役員を以て之れに充つ

第七條　本會々費は每會一人金五錢つゝとす

第八條　愛國婦人會員外の者と雖も本會員の紹介を得たるものは入會を許す

▲新潟支部　同支部幹事部内三條町會員相謀り二月十四日三條町東別院に於て故奥村五百子刀自の追弔法會を午後一時執行せり當日參拜者百五十有餘名にして讀經の後郡幹事部長藤脇福子弔辭を捧げ其他奥村子の本會創立並に生後今日に至る間頗なる閱歷談あり散會せしは同五時頗る盛況なりき

▲福島支部　同支部に於ては卅七卅八年兩年間縣下凶作の爲め會員募集等は一切中止し置きたるが本年中に於ては是非とも五千人以上の新入會員を募集する事に決定し種々なる方法を以て現今募集に着手中にて各幹事部總會を開き夫れを機として募集せしに其結果著しき成績を見るに至れり仍て第一に安達郡幹事部總會を來る三月中旬を以て開會する事に決定準備中なり又郡には今日迄新入會百餘名に達し尙開會當日迄數百人を募集するの見込あり尙引續き各幹事部に於て順次總會を開き來年中には是非とも豫定の新入會員を得るの見込各幹事部長を始め幹事一同熱心盡力中なりとの報知に接せり

> **會告**
>
> 故正七位奥村五百子氏の分骨本月二日淺草東本願寺に到着せしに付ては三月七日午後二時同寺に於て納骨式施行致候間東京市附近在住の本會員は勿論其他男女に係らず有志の諸君隨意御參會被下度希望致候也
>
> 愛國婦人會

▲島根支部　同支部内八東郡玉湯村に於ては同村高等小學校長海野林太郎氏の盡力にて會員倶樂部を設立し會員の懇親を計り傍ら入會者勸誘の方法を立てたりと云ふ

▲愛知支部　本年四月中旬に於て會員總會を開催の節は名古屋離宮及天主閣拜觀の義特別會員以上の人々には差許さるゝ事に運び中なり尙同支部には豊橋市幹事部を設立せり

▲北海道支部　同支部内空知幹事部長沼村に於ては一月廿七日第二回總會を長沼尋常高等小學校内に於て擧行す支部よりは支部長代理副長佐藤陽子評議員酒居君子相談役阿田榮宗三郎事務員小池九一臨式せり同日午前十時五十分煙火を合圖に衆式し高木幹事開會の辭支部長代理總裁殿下御尊影の帷を撤す(奏樂君か代)支部長代理御令旨を奉讀し支部長祝詞を陳べ了て來賓の祝詞會員總代の答辭あり夫れにて帷を覆ひ幹事閉會を告げ式を了へたり當日佐藤副支部長の一行は同會にて優待し遺族廢兵に慰問の辭を陳べたる後ち一同散會せり

▲佐賀支部　京都大學病院に於て病死し愛國婦人會の公葬を受け東本願寺に埋葬せられたる故奥村五百子刀自の分骨は二月十九日奥村勢一、奥村蒸圃山田節太郎諸氏の一行之を伽護し八時二十分着の列車にて唐津驛に安着せり出迎者は奥村トシ子奥村ナヲ子其他の近親及び原田郡長矢代町長其外二百餘婦人側にては愛國婦人會幹事を始めとし同會員二百名其他唐津婦人會甲辰婦人會其他緣戚知己の女子無慮一千名に達し構内外に整列せり遺骨は瀬戸武七郎氏捧持し車室を出や一同敬禮をなし親戚總代福地隆春氏の挨拶あり矢田町長先驅をなし瀬戸武八郎氏遺骨を捧持し停車場より高德寺に至るの間人垣を築けり同寺にては男女の席を分ち讀經の後奥村勢一氏を始め一同燒香をなし退散せり當日矢田町長代理として[illegible]氏佐賀驛迄出迎をなせり

▲大阪支部　本部遊說員富樫まき子氏同支部遊說中なるが高崎大阪支部長及廣岡評議員其他大谷河合等の諸幹事等之を助け去月より各郡部をも遊說中なり

▲宮城支部　同支部にては遺族及廢兵を慰問し同時に狀況視察を行ひ救護金の付與に盡力中なるが其慰問心得は左の如しと云ふ

△市內を十區に分ち其區內に居住の職員は受持區內の遺族並に廢兵を時々慰問し其狀況を支部に報告する事△受持區內に遺族並に廢兵なきとき或は少數の場合は最寄り他の區を補助し慰問する事△遺族並に廢兵の家族に對しては最も親切に本會の旨趣に依り慰問の旨を示し置く事△家族の職業又は兒童の就學等を視察し支部に報告する事△遺族廢兵及び病兵の死亡したる場合は成るべく速に支部に報告する事△丙丁の被救護者生活程度を視察し其狀況を支部に報告する事△被救護者にして死亡したる者あるときは其狀況を調査し臨機の詮議に付する事

▲栃木支部　宇都宮市に於ける愛國婦人會員は目下八百八十有餘名の多きに達し縣下中第一等の優勢を占むるに至りたるが各幹事は昨廿一日市役所に會し市內の廢兵及び遺族者六十九戶を慰問せんとの議起り幹事部事務所費用三十餘圓を投じて白フラネル布を購入し各々部所を定め慰藉と同時に防寒用具を贈呈せりと云ふ

▲熊本支部　二月十八日午後一時より赤十字社熊本支部に於て職員會を開くに先つ新任支部長押川夫人の挨拶あり次で來賓長尾軍醫部長、野田、西行、南木諸氏の有益なる講話あり續て事務員の會務報告あり午後四時散會せり來會者押川支部長を初め西島評議員石原支部副長外幹事委員會員七十名

> 支部活動狀況は可成迅速に御報知の程願上候
>
> 愛國婦人會
>
> 各地支部御中

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

子供くらぶ

舊いお友達

三島霜川

花ちやんの人形の名は、美イちやんと申しました。其れは、花ちやんが、母樣と乳母やに御相談をして盼けたのでございます。美イちやんは、去年の春、母樣が何處からか連れて在らして、そして花ちやんの娘になされたのでございます。花ちやんは今年未だ五歲でございますから、幼稚園へ通ッてゐました。

さて花ちやんは、たいそー美イちやんを可愛がッて、何時も脊負したり、抱ッこしたり、些ッとの間も下に置かないやうに大事にしてゐました。ところが此人形の顏が汚たなくなり、お手手も片一方無くなッたとなりますと、美イちやんはお庭へ拋出されたまゝ、雨に濡れたり風に洒らされたり、其れは酷どい目に會されるやうになりました。

然うしてゐる間に花ちやんはスカッリ美イちやんの事を忘れて了ッまいました。而して、美イちやんが何處へ行ッて什麼してゐるのか、其れさへ考へなかッたのでございます。花ちやんの頭の中から全く美イちやんといふものが消えて了ッた。

花ちやんはだん／＼と成育ッて七歲になりました。其年の三月三日の晩……桃のお節句の晩の事でございました。花ちやんは御殿のやうに雛壇を飾り立てた室で小さいお客樣の接待に疲れ果てゝ少しの間居眠をしてゐました。

ふと見ると、自分の傍に汚たならしい人形が悄然と踞まッてゐます、花ちやんは吃驚して、

「お前さんは誰？」と訊ねますと、

「妾は美イちやんでございます。」

「あッお前美イちやんだッたの、さう妾スッカリ忘れて了ッてゐたわ。そしてお前今何處に居るの。」

「矢張當家にゐるのでございます。」

「妾ン許に？……そして妾ン許のどこにゐるの。」

「お藏の二階にゐます。」

「まア誰が其麼處へ連れて行ッて？妾些ッとも知らなかッたことよ。」

「でも忘れて了ッて在らッしたのでございませう。」

「えゝ、眞個に忘れてゐたわ。」

「ですから妾お恨みを謂ひに來たのでございます。私は今、玩具箱の中に、飯事の道具だの、てん／＼太鼓だの、古い羽板だの、貴女が玩具になさいました種々のものと、同居して居りますけれど、這麼になッて了ッては既う誰も目に懸けて呉れませんから、恰度三年越箱の中で種々苦勞をして居りました。」

「耐忍して頂戴な、ね、美イちやん妾が惡るかッたよ。妾は遂、忘れて了ッたものだから、箱の中に入れて、酷どい目に會はせて置いたけれど、知らなかッたんだから爲方がないことよ。是からまた昔のやうに仲好になッて好い着物を着せて大事にして上げますから、もう其麼に心配しなくても好いわ。お前さんは妾の娘なんだから！」

花ちやんは美イちやんの窶れた姿を見ると、可哀想になッて何時か催淚でゐます。

「其れでも貴女は後になッて大變に妾をお憎くみになッたぢやありませんか。撲ッたり蹴ッたり叩き付けたり、どんなに酷い目に會はされたか知れません。其れで妾は這麼汚たない顏になッて、這麼見すぼらしい姿になッて了ひました。」

「其れだから、妾是から、出來るだけ大事に仕て進げるわ。妾稚ひさかッたもんだから、何にも知らず邪險にしたけれど、眞個は美イちやんが一番好きで、一番能く遊んだもの、もう大丈夫よ、大事にして進げてよ。」

と花ちやんは稚ひさい時分に爲たことを幽かに思ひ出して、後悔でなりません。

「妾も多分何時か貴女が思ひ出して下さるだらうと思ッて待ッてゐましたけれども、何時迄經ッても憶ひ出して下さらないもんですから、今夜は恰度お節句の晩でございますし、密と伺ッて見たのでございます。それに妾のお友達だッたきいちやんと謂ふのが貴女のお友達の春ちやんの許で硝子のお家へ入れられて、今日なんかスッカリお召替をさせられる程に大事にされてゐるんですもの。其れが羨ましくてならないもんですから、私も貴女にお願して、那樣にして戴かうと思ッて參ッたのでございます。最う人形の身の上と謂ふものは大概妾の今のやうな目に逢ふやうになッて了うのでございますけれど、貴女は優しい御親切な方で在らッしやいますから、其れで願ッて見たのでございます。

一體世間の孃さん達は、何だッて那樣に邪險なんでせう、奇麗なうちはチヤホヤ母樣よりも大事にしてゐながら、少し汚なくなるとさんざ酷どい目に會はして、片輪にした揚句に放擲ッて了うんだもの！人形にだッて魂が有るのに餘まりだと思ッてよ。」

「美イちやん、もう解ッてよ、妾もう思ひ出して了ッたから、放擲ッて置かないわ。明日よりは乾度おもちや箱から出して、昔のやうに大事にして進げてよ。」

「乾度でございますか。」

「乾度よ。」

と謂ッたかと思ふと花ちやんは眼が醒めました。

「おや、おや、」

と驚きながら、其處らを見渡すと直ぐ傍に母樣が立ッてゐて、

「花ちやんは乾度何か夢を見たね。」

「さうよ母樣、美イちやんの夢を見てゐたのよ。」

「美イちやんて誰の事なの。」

「ほら、何時か妾が人形を持ッてゐたでせう、那の人形を美イちやんて謂ッたぢやありませんか。」

「然うだッたね、那の人形が何うしたと謂ふの。」

「妾、あの人形の夢を見てゐたのよ。母樣、人形に魂が有ッて？」

「人形に魂が有るものですか。」

「其れでも妾……」と謂ひかけると、

「花ちやんは夢を見たのぢやありませんか。」

と母樣は何と謂ッても笑ッてゐられるばかりでした。雖然花ちやんは此事ばかりは、母樣の言葉を信じませんでした。そして美イちやんとの約束を守ッて、次の日はお藏の二階にある玩具箱の中から美イちやんを探し出して、舊のお母さんになッた積りで、何時迄も美イちやんを大事にしておきました。また花ちやんの一番舊いお友達はと謂へば、此人形の美イちやんでございます。（をはり）

子守唄

子守唄は稚兒の耳には天使の聲なり、これに依つて稚兒に多大の慰安と、善き感化を與ふ、最良の教科書也。

○　竹入勇子

ねんねんよー、ねんねんよー、ねんねの子守は。どーこいた、あれはお里へ茶々呑みに、茶々を呑むだら早よ戻れ、はーよー戻ッて子をすかせ、子を賺さねばいーねいね、どーこを通ッていーのーか、たーかいお山を通ッていね、高いお山にや鷹が居る、ひーくいお山を通ッていね、低いお山にや蟇が居る、畑のお道を通ッていね、畑のお道にや鳩が居る。

○　弘前　岩村芳江

寢にや、ころ／＼、子あらばお里のおば樣喜ぶべいじや、よいやい、よいやい、よーいやい。

寢にやもーりはどーこいた、山を越えて里へ行た、里の土產に何にもろた、てん／＼太鼓に笙の笛、起上り小法師にふり鼓、よいやい、よいやい、よーいやい。

○　和歌山　西ねい子

ねんね子、さんね子、酒屋の子、酒屋のもーりはどーこ行た、彼の山こーえて里へ行た、さーとの土產に何に貰ろた、べん／＼太鼓に笙の笛、もろーて／＼よー吹かね、正月三日に吹いて見しよ。

○　青森　佐藤國子

坊やはよい子だ、ねいろじやよ、寢いねば山から蒙古くるアね、坊やのもーりはどーこ行く、やーまを越えて里へ行く、里の土產に何にもろた、てん／＼太鼓に笙の笛、ねいろじや、ねいろじや、ねいろじやよー。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛情の尊嚴（上）

ジエーン、エィアの梗概

片上天弦

十九世紀以來は、英吉利にも女流作家が大ぶ出てゐるが、其の中でシャーロッテ・ブロンテ女史の如きは、エミリィ・ジェーン、アンと、三人揃うて當時の文壇に名を馳せた。併し三人の中で最も優れたのはやはり姉のシャアロッテで、女史は病弱の身、三十歳に滿たぬうちに世を去つた。作の中で最も有名なのは「ジェーン・エィア」といふ一篇で可なり長編の作であるが、次ぎにその略筋を摘めば、

幼稚くして兩親を喪つた可憐の少女ジェーン、エーアは、その幼き時代から早くも世の辛酸を嘗め、只これのみが頼りなる叔父リードの家に養はれたが、叔父はジェーンがまだ西も東も知らぬ間に死んで、其後は義理の叔母の手に其の日其の日を送る事となつたが、叔母には強情我儘なエリザと、根性の曲つた意地惡のジョージアナと云ふ二人の娘に、ジョンと云ふ腕白な息子があつてジェーンは天眞の人懐かしい幼時をば繼子あしらひの叔母には虐められ、エリザやジョージアナには意地惡く罵られ、ジョンには打たれたり蹴られたりのみじめな境遇に獨り泣き暮したので、次第に無邪氣な和伎氣ない性質が消失せ、世の人の恃にならぬ事をつく／＼と幼な心に感じて反抗心が強くなつて來た。されど人間は有情の動物で、愛なくては一日も生きられぬ、語ふ人無きジェーンは人形を抱いて僅かに憂愁を晴さうとした事さへある。ジェーンが十歳の或る冬の日、獨り仲間外れにぽつねんと讀書して居ると、ジョンが來て例の如く瑣末事から書物を奪ふて投げ附ける、今迄は唯小羊の樣に默止してゐたジェーンも、今は堪へかねて口答すれば、忽ち勃然と色をなしたジョンの鐵拳に、ジェーンは頭から血の出る程打たれた揚句、家内中の騒動となつて、七年前に叔父が死んだと云ふ陰氣な部屋に閉込められた。むら／＼と起る怨恨の情に引泣り來る涙は止度も無い中に段々と夜が更けて、火焰と燃え上つた反抗の情、憎惡の念が次第に靜まつて來ると、叔父が息を引き取つた寢床や、朧然と壁に懸つて居る古鏡やを視るに附け、何とはなしの恐怖さに身も縮み上つて、罅隙洩る冬の嵐の寒さに打ち震うた。

不圖外面を見遣れば、赫然と光る火の玉があるので、若しや叔父の幽靈が來るのではあるまいかと思ふと、何の思慮も無い子供氣の矢も楯もたまらずに一散に走つて戸を亂打する。家の人も流石に驚いて、開けて出さうとすると叔母が來て、泣き叫び救助を願ふジェーンをば、又もその怖ろしい暗室に無理矢理に押し込めて了ふ。ジェーンは夫れなりに渾沌と氣絶する。

さらでだに強かつたリード一家に對する憎惡の念が、其事から一層激しくなり、叔母には容赦なく思ふ所を云つて良心を苦しませるので、叔母は遂にブロックル、ハーストの建て、居るローウードの孤兒院にジェーンを容れることにした。

てジェーンは翌年正月十九日の朝まだき、叔母には訣別の一言も交さず、送りの女に連れられて、ほの暗い冬の寒さに小股に刻みつゝ、いそ／＼と十一歳の少女が五十哩の長途を旅立した。行末は幼い身の唯獨り定めない命運の手に揉みに揉まるゝ果敢ない身ながらも只管現在の苦境を免がれる事の嬉しさに、乘合馬車に乘つて最後にゲーツヘッドの家を眺めた時、「何んな事があつても、二度とこんな所に來やしないは」と捨言葉にローウードへ向つた。

ジェーンは此所でも決して幸福では無かつた、樣々の出來事も起つた、苦しい悲しい事もあつた、營養不足に痩せもした、切角友人も出來、教師にも信用を得た時、校長の一言の爲めに忽焉として又元の悲しい孤獨生活をせねばならぬ樣な事もあつたが、幸にして其の親友ヘレン、バーンスと云ふ少女とミス、テンプルなる女教師との慰藉と扶助に依つて、あらゆる艱苦を忍び耐え、比較的平靜な生涯を送る事が出來た。此所で彼女は佛語、繪畫其の他の知識を得た。

ミス、テンプルは母ともなり、友ともなり、又精神上の指導者ともなつて、少なからずジェーンを益した人、ヘレンは熱心な耶蘇教信者で、宗教的精神を幼な心に養成んだ俊才であつたが、間もなく肺病で荊棘多い現世を去つて、惠深い神の懷中に眠つた。ジェーンには一大打撃であつたに相違無い。

丁度五月の末つ方、花も咲き鳥も歌ふ頃院内に窒扶斯が流行して、中半以上の少女が皆此の病魔の冒す所となつた時分である。ジェーンは、ヘレンの病氣が危篤と聞いては寂しい、悲しい氣が嘔逆げて來て眠られぬ夜半に密そりとヘレンに遇ひに行つた。そして其の憔悴れた顏を見るにつけ、苦し相な咳嗽を聞くにつけ、坐ろに長の別離の樣な氣がして、離れまいぞと互ひに抱き占めた。

「離れちや厭よ、ジェーンさん、ね、確かり斯うして、そして……そして妾は天國に行くの」

滂沱たる涙は泉と湧いて、止め度も無い

ジェーンは、

「厭よ！　そんな事は云ひつこなし、何時迄も一所に居るわ」

今宵を別れと凝視る時、またうら若い心にも、云ひ知らぬ深い／＼悲哀を感じたらう、

「寒か無いこと？　又神樣の所で一所になりませうね」

浮世の風に凋んだ花の蕾と、蕾とが相抱いて、夢は何所を吟行ふたやら。翌朝ミス、テンプルが來て見れば、二人の少女は、同じ寢床で一つに成れよとばかり確りと抱き合つて居た、一人は眠つて、そして一人は……死んで！

孤兒院に來てから六年間は生徒、二年間は教師として生活したジェーンは、ヘレンの死後、ミス、テンプルの結婚後、單調な乾燥なその生活を厭ふて。ソーフィールドなるロチエスターの家に家庭教師となつた。

ロチエスターも亦不遇の人。青春時代に佛國の樂劇女俳優に萬金を投じて墮落の淵に沈んだが、非を悔ひて正實に世を渡らうとした時は既に遲かつた、その女には彼れの胤だと云ふ女兒が出來た、それが即ち今のジェーンの生徒でアデールと云ふ可愛らしい娘である、やがて女俳優は兒を置いて、或る音樂家と出奔した。そしてその後のロチエスターは煩悶逡巡の人、消極の人となり、其の兒を此の片田舍に、ミス、フエアファクスと云ふ老婦人に預け置いて、自分は所定めぬさすらひの身と、好んで旅行して、苦痛を忘れやうとした。

ジェーンの此所に來た時は彼の留守中であつたが、程なく、歸り來て、此の煩悶後悔の人と、此不幸不運の女とは相覩て互ひに熱烈なる戀に陷つた。

▲廣岡淺子　大阪　富永才子

數ふれば星の如く、眺むれば花の如き現今の婦人界で、私の崇拜して居りますのは廣岡淺子氏で御座います、私がかく申しますのは、單に新聞雜誌で御名論を拜見したり、世の人から御英名を承つた計りでなく、暫く下女となつてお側に在りましたからで御座います、其御性行は今更不束なる私などが申すまでも御座いません、實に婦人の模範として仰ぐべき方であると敬服いたして居ります。

▲三輪田眞佐子　群馬　伏島たき子

世の進むにつれて、人情輕佻浮薄に流るゝが如き觀ある今日、謹嚴にして、しかも優しう、學藝に秀でられたる、三輪田眞佐子刀自こそ、日本婦人の模範なれと、己は常に崇拜す、きく、君がすべたまふ、學びやを、卒へられたる女たちは父母に孝はもとより、夫に仕へて貞淑よく家政を處理してあやまらずと、あはれ己も齡わかゝらましかば、君が膝下に伏して厚きみをしへをもうけましものを。

▲下田歌子　京都　松岡里代子

妾が崇拜する人と云へば、まづ指を下田歌子女史に屈す、君が美しき操行、高き定見、豐富なる學識はげに婦人の龜鑑たらずや、さはれそを妾の理想となさんにはあまりに遠く、且高し、たゞ景仰し崇拜して倣はんことをつとめんのみ。

▲選者曰　三篇共に三等、社說を參照せられたし

閨秀六佳選當選披露

▲當選（廿九票）　富永才子君

右推薦者

伏島たき子君　萩原さだ子君　四村てふ子君　古川よれ子君　瓜生保子君　林田鹿子君　佐野眞子君　磯谷澪子君　横川千賀子君　十合貴美子君

楠田りん子君　松村壽賀子君　木暮千代子君　佐藤國子君　中山正子君　山田靜子君　岩室駒子君　清水今子君　富樫つる子君　中村益子君

茂呂その子君　田島正子君　武田須磨子君　秋元小菊君　鵜うれ子君　小阪夏子君　森田竹子君　中隈富士子君　竹入勇子君

▲當選（廿八票）　森田竹子君

右推薦者

伏島たき子君　萩原さだ子君　四村てふ子君　古川よれ子君　瓜生保子君　林田鹿子君　佐野眞子君　清水今子君　富樫つる子君　中村益子君

楠田りん子君　松村壽賀子君　木暮千代子君　佐藤國子君　中山正子君　山田靜子君　岩室駒子君　中隈富士子君　竹入勇子君

茂呂その子君　田島正子君　武田須磨子君　秋元小菊君　富永才子君　小阪夏子君　磯谷澪子君　横川千賀子君　十合貴美子君

▲當選（廿五票）　花輪余志野君

右推薦者

伏島たき子君　松村壽賀子君　木暮千代子君　富永才子君　林田鹿子君　佐野眞子君　清水今子君　富樫つる子君　中村益子君

楠田りん子君　田島正子君　武田須磨子君　佐藤國子君　山田靜子君　岩室駒子君　中隈富士子君　竹入勇子君

茂呂その子君　四村てふ子君　古川よれ子君　瓜生保子君　小阪夏子君　磯谷澪子君　横川千賀子君　十合貴美子君

▲當選（十七票）　茂呂その子君

右推薦者

楠田りん子君　四村てふ子君　富永才子君　林田鹿子君　森田竹子君　富樫つる子君

萩原さだ子君　木暮千代子君　秋元小菊君　小阪夏子君　中隈富士子君　中村益子君

田島正子君　古川よれ子君　中山正子君　岩室駒子君　横川千賀子君

▲當選（十三票）　伏島たき子君

右推薦者

田島正子君　瓜生保子君　岩室駒子君　清水今子君　十合貴美子君

富永才子君　山田靜子君　森田竹子君　中隈富士子君

佐藤國子君　佐野眞子君　磯谷澪子君　横川千賀子君

▲當選（十票）　水野淑子君

右推薦者

楠田りん子君　武田須磨子君　佐野眞子君　清水今子君

松村須賀子君　秋元小菊君　森田竹子君

四村てふ子君　小阪夏子君　磯谷澪子君

▲選外

九票　名取照子君
四票　木暮千代子君
三票　四久子君
三票　阿部きゑ子君
二票　岡田春代君
二票　名取正子君
一票　四屋保子君
一票　長磯錠子君
一票　末田竹子君

九票　武田須磨子君
四票　中隈富士子君
三票　中村[illegible]子君
三票　市橋[illegible]子君
二票　渡邊[illegible]子君
二票　杠[illegible]子君
一票　十合貴美子君
一票　横川千賀子君
一票　瓜生保子君

右の外浦月子氏三票、森山まん子氏一票ありたるも、浦姉は特別寄稿家たるの故を以て加へず、又森山姉は本紙の寄稿家にあらざるを以てこれも省きぬ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

雜報

●堀内中佐より　平壤に於ける本會顧問堀内中佐より書信あり同地に於て忠魂建碑式を行ひたるよしにて同地に於て發行する平壤日報の記事本紙に轉載方依賴越されたるにより其全文をこゝに掲ぐ

●忠魂建碑式　平大尉葬式及歩兵第五十八聯隊忠魂建碑式は既報の如く一昨日萬壽臺に於て執行せられしが各宗僧侶の讀經あり林少將を始め理事官民長砲兵憲兵隊長及安州鎭南浦等よりの代表部隊在壤各大隊等悉皆碑前に整列し其他多數の參列者ありて極めて盛嚴なる祭式なり式終るや銃鎗試合角力等の餘興あり殊に當日は近來稀なる好天氣なりしとて頗る盛况なりし當日忠魂碑に對し朗讀せられたる堀内聯隊長の祭文は左の如し

祭文

故陸軍歩兵大尉平繁治君及陸軍一等軍醫岡本愛雄君外三十三名の諸君の忠烈よ諸君の親愛する我が聯隊は不遠内地へ歸還するに付き諸君の戰友たる我聯隊將校下士卒一同相謀り謹而諸君の遺灰の安州鎭南浦等各所に散在せるものを悉く箕城城北風凊くして遙かに母國の旭日に對する萬壽臺上に合葬し本日諸君の忠魂建碑式を施行す諸君は一死報國の赤誠を以て終に韓國守備に殉し大に我が皇威の發展を助けられつゝあり諸君の靈亦以て自ら慰むるに足らん今や諸君の親愛する我が聯隊は一たび箕城を去ると雖とも諸君の忠魂は長へに留まりて韓國の重鎭に任じ益々大日本帝國の武威を輝し其前途を護衛するを悅び我が聯隊一同深く諸君の忠靈に信賴し玆に謹而告別すると同時に忠烈勇武なる諸君の英靈を祭る庶くは來り饗けよ

明治四十年二月十六日
歩兵第五十八聯隊長
陸軍歩兵中佐正六位
勳三等功三級　堀内　文次郎

家庭實用新案

▲酸くなりたるパン　は棄つべからず、鷄卵一個と少許の牛乳と、砂糖とを取りよく打ち交ぜ、フライパンをよく拭ひ置き火にかけバタをよく塗り置き、其パンを彼の卵の交ぜたるものに浸し少し焦げる迄燒ぐべしこれをジャーマントーストといふ朝食等に非常に結構なり

▲家事上の働き　は衞生上最も適當なる運動なり日々家事上の仕事中あれこれと働く時に知らずしていろいろに身體の筋肉を動かす事は婦人に取りては最大切なる事にして自然に運動法に適ひたるものなりといふ、斯く肉體上の働きをなす間に時々知識上の働きの交る事は尤も必要なる事なり、斯くして肉體と知識上の働きが共に在りて始めて完全の運動となるものなりといふ、決して家事上の働きは厭ふべきものにあらず

▲不眠症の手輕療法　は湯を呑み又は足を湯に浸すなり、其方法は床につく前に耐へられる丈熱き湯にてよく足を洗ふべし、斯くすれば血液は足に集る故頭部の血管に血の寄る事なくして恐しき夢など見る事なし、湯は血の循環をよくするものなり依て足一ヶ處にのみ血の集る事なし從つて床に入るを恐るゝ等の事なし

○ランプの手入　は中々厄介なものなり時々油を入れかへても燈心の掃除をしても矢張暗き事ありて困るものなり、如何にも困りたる時は口金と燈心とを取外して洗濯曹達少しを加へたる熱湯中に入れてよく煮るべし、引上げて口金も燈心もよく乾したる後油を入れかへて點燈すべし明るくなる事妙なり

▲銀器の手入　磨きたる銀器の曇りたるは甚だ見苦しきものなれど猥りに素人の手にて磨くべきものにあらず、かゝる時には馬鈴薯三四個—餘り小さき時は五六個—を取りよく皮を去りたる後湯にて煮る事四十五分許り其間に食鹽少しを加ふべしほどよく煮へたる時、銀器の少なるもの—匕とか盃とかの類—を此の湯の中に入れて共に煮るべし、引き上げて濕氣を去る時は光澤以前の通りになるべし

▲牛乳　田舍にては都會の樣に消毒牛乳といふ樣な都合よき牛乳は得難きものなり、去ればとて其まゝ呑すも面白からず、當惑する人多かるべし斯樣の時には可成新鮮なる牛乳を濾して用ゆべし、其方法は濁りたる綿—勿論消毒綿に限る—を濟めたる漏斗に置き其上に牛乳を濯ぐべし牛乳は全く口に合ひたる栓ある瓶に受けて外氣の流通を防ぐを肝要とす、斯くすればとて牛乳の滋養分の減ぜざるは勿論味も變る事なし、但し熱して用ゆべきは常の牛乳と異る處なし

新聞の新聞

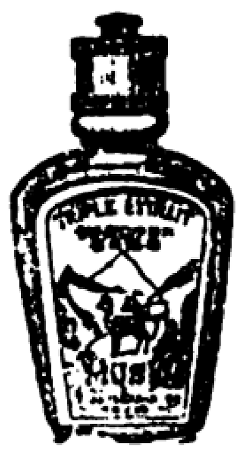
▲上流社會女子教育進歩の概況　昔はお姫樣が骨太になりて肉が澤山付いて下等の人と違はぬと云ふと與肉の據居する處であつたが其後女子の體格を強くしなければならぬ常識を備へなければならぬことゝ適切に感ずると共に一般貴族社會の槪念が一變して來て今では寧ろ不思議な程上流女子が體操を喜ぶやうになり此勢で押進むと何處まで行くか殆んど解らぬ程であるがそれと同時に昔日不平の因であつた算術等に就ても都て父兄の方から益々進めて行かなければならぬと云ふ希望を出すやうになつて來た勿論無形の精神上の事や智力上の事も之につれて昔日とは大層違つて來たには相違ないが是れは何分結果の遲いものであるから今日の處では中々體格進歩に比較する事は出來ない實に體格の進歩の著さは今日では上流女にも中流女にも殆ど優劣がないのみならず上流にして而も注意を怠らぬ家庭に在つては實に立派な體格を備へて居る者が多い而して學校出身の婦人は皆立派な兒を擧げて居る現に角幼稚園に入る時は丙の體格といはれた腺病質の虛弱な女子も卒業までには十中の八九甲の合格になるのは生徒の體格統計の上に明かであつて教育は是れ程に效果を奏し得るかと驚かるゝばかりである上流女子教育の途が立つて以來三十餘年の間に有形の上に於て是だけの結果を見ることの出來たのは誠に喜ぶべき事であらうと思ふ　（時事新報紀念號沢亭女史談話）

▲明治初年の女生徒　亂雜な世の風儀を改むるには先づ第一に婦人は婦人らしくあるやうにしなければならぬと考へ生徒の髮は稚子髷、帶は立矢の字でなければならぬ紫の袴を穿かせ式日には繻子模樣の振袖に緋の袴を用ひることに定めました今日から考へると甚だ贅りがましいやうですけれど世の中の婦人の風が前に申す如き殺風景で隨分地位ある家の令嬢でも衣類に艶氣などは更になく幅の狹い博多の帶を男結びにして如何にも殺氣ない風であつたから其反對に愼ましく淸淑な貞形をさせて優美な心を養ふの手段をいたしたです夫れに生徒は總て上流の人々のみでしたから緋の袴位穿いても決して差支ないと思つたからです次に亂雜な擧止を制して禮節に嫺はしめるの一方法として神事祭典を教へ彼の文字を造られた神と古事記に傳ふる天兒屋根尊を祀つて生徒をして奏樂の中に供物玉串を捧げさせ賞罰を謹ませ又神前に於て書を誦じ字を習はせましたが夫れが如何にも嚴然として禮儀正しく奥床しくあつたので御座います　（時事新聞跡見花蹊氏談話）

▲家庭に就て　一般の家庭が昔に比べて大へん惡るくなつたと云ふ樣に申す人も御座いますが私は確かに良くなりつゝあると思ひます勿論世の中の進歩は波のやうに一高一低いたすものですから永い年月の間には時々退歩する樣な氣味もありませうけれども大體から見ても良くなつて來て居ることは間違ひない事實で有ります又主婦の側から云つても昔の武家教育を受けた人の方が精神も堅固で家政も能く治めると云ふ樣に唱ふる人もありますが昔でも賢明と評さるゝ程の例外は別として一般から見れば矢張り新らしい敎育を享けた人の方が實いに相違ない昔の人は只家内を綺麗にするとか賄ひを上手にするとか云ふことは巧みですが精神上の修養が無いから卑劣な點が多く從て執拗な怨恨嫉妬などが存外に多い是れも今の方が幾分か宜いと思ひます併し今の婦人はモウ少く進んで行くやうに自分から心懸ければならぬ世の中の有樣を見るのに男女の知識の懸隔が甚だしく迚も今日の處では婦人が男子の理想抱負を了解し得るだけに進歩して居りません男の缺點だけは見え理想のホームと云ふやうなことに就てはなか／＼望も高いのですけれど扨實地に當つては何一ッ相談相手にも話相手にもなれない樣な譯で男子に失望落膽させると云ふのは誠に殘念なことゝ思ひます如何に世事に經驗のない若い年頃の婦人とは云ひながら此節の高等女學校を卒業するものが餘り常識に乏しく頭腦が無さ過ぎるやうに思はるゝのは餘程注意すべき問題ではありますまいか　（時事新報鳩山春子氏談話）

▲今と昔　私は今度米國に行つて見て始めて人間の尊いことが解りました彼方には幾らでも仕事があつて人が少ないものですから人足など云ふものは一人も居りませぬそれ故一寸車を頼んで荷物を運ばせると云ふやうなことは出來ませぬそれから華盛頓の御墓へ御參りしましたら二三年前東伏見宮樣が御渡米の際臨時に御手殖になつた楓樹の葉が黄紅とりどりに染め出されて地上に落ち散つて居りました是れぞ好い家土産と思つて拾つて手に持つて居りましたら監守の人が徐かに違つて參りまして微笑みながら葉を取るのは樹の爲めに頭て御座いますと申しましたから否私は葉を取りませぬ只私の國の皇族の御手殖になつた此樹を懷しく思ひますから地上に散つて居るのを持つて歸つて衆人に見せやうと思ひます可けませぬかと申しました、ア、さうですかそれなら澤山御拾ひなさいと云つて直ぐ立去りました　（時事新報矢島かじ子氏談話）

●構造堅牢　●使用便利
●運轉圓滑　●外觀美麗
ホワイト印裁縫ミシン
輸入元
東京市神田今川橋際
横濱市元濱町一丁目
古屋商店


ムスク香水
（大瓶壹圓●中瓶六拾五錢●小瓶二十五錢）
○本品は芳香の永く保つ點に於て頗る高尚なり
東京日本橋區本石町四丁目
ホーサン石鹼本舖
本舖　松澤常吉
（電話本局四百四拾五番）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

佐々木信綱氏選

天　埼玉　水野淑子

草に座して馬の子うつす畫匠かすかたうすれてかすむ野邊かな

▲評　下句はいまだしけれど着想の新らしきをとる

地　青森　吉田安子

はら〳〵と花散る里の夕暮や墨繪の如くかすみてくれぬ

▲評　まこと畫のやうなり

人　青森　馬淵まさ子

我が乘りし船は靜かに岸につきぬ見かへる島は夕霞して

▲評　うつくしきけしきしつかなるながめ

〇秀逸

あゝかくてとはに包めよ春霞我等二人をこの花園に　石川　小阪夏子

うすく濃くかすみ棚引く朝ほらけ十里の花野春の風吹く　東京　大川鷹賀子

〇甲

見渡せは湊にやとる苫船の數さへかすむ春の夕はえ　三重　庄司みや子

野も山も海にも立ちて長閑なる春の姿は霞なりけり　長崎　葛原梅香

小牛おふ童のかへるかすみの野　▲評　三句猶あらばや

〇乙

春またき遠山の端いうすかすみ花のおもかけしのはるゝかな　廣島　富樫つる子

ひえの根は霞にけりな春の日そ都大路も長閑なりける　京都　磯谷澤子

わ子つれて若菜つみつゝ眺むれは野面のとかに霞たなひく　岡山　河瀬道子

炎陽のもゆるおもひに朝戸出のみねも尾上も立つかすみ哉　東京　中山きわ子

むすほれし氣もはるゝまてのとやかに海原かすむ春の夕くれ　東京　小島幹子

をちこちの工場のけふりたなひきてかすみこめたる夕暮の空　東京　三宅ひさ子

第十五回作歌募集	第十四回短文募集	第廿一回俳句募集	第廿八回新詩募集
題　春の海	題　隨意	題　蛙	題　隨意
選者　佐々木信綱	規定　總て編輯局同人	規定　一人一句	規定　短編
規定　一人一首	優等　四月附錄紙上にて拔萃	優等　編輯局同人	優等　編輯局同人
優等　四月用紙	本紙上に作は拔露すべし	本紙四月用紙上に句は拔露すべし	本紙四月五日發行の紙上に作は拔露すべし
本紙上に作は拔露すべし	五日發行の	五日發行の	
五日發行の			

締切三月廿日限り

〇

新体詩

▲春曙（二等）　京都　磯谷澪子

曉つぐる　黑谷の
鐘のひゞきに　花ゆらぎ
香りえならぬ　庭もせに
今朝も來鳴ける　鶯の
聲ものどかに　春かすみ
野をも山をも　つゝみけり
あな面白の　けしきかな
あなうるはしの　春のあけぼの

▲岩木山（二等）　青森　茂呂その子

玉の冠　六つの花
彩の羅衣　八重霞
空に崇さ　津輕不二
鏡と映る　岩木川
民の竈は　賑ひて
豐に煙る　鷹ヶ城
外が濱風　婦々と
天地和く　春の山姫

俳句　蝶

天　函館　菅原よしを

舟出して別るゝ岸の蝴蝶哉

地　東京　濱浦子

蝶追ふて幕から出たり小傾城

人　東京　西川縫子

花の枝手折りて蝶に追はれけり

十客

花の蝶風の油斷を眠りけり　熊本　黒川友琴子

〇

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

廣告

美人となる秘密？

歐文ハウツービービチフル參照

色の白きは七難かくすと申し御婦人は勿論男子にても皮膚の奇麗な程快きものはなし此皮膚を奇麗にすると云ふことは平素の食物と衛生に依るとは云へ彼の歐米人が艶の美はしく皺の少なきは日ノ出クリーリムを缺くべからざる化粧品として使用しつゝある所以にして日ノ出クリームが又東洋の御方にも適當なるとは衛生試験所の證明其他各位の實験上明かてありまず色を白くしキメを細かに美麗ならしむることは勿論日ノ出クリームは電氣乳剤なれば皮膚を摩擦する時は脂肪が一面に普及し柔軟ならしむる故老年に至るも皺の寄るとなく如何に其花の如き姿を永く保ち得るてしようか又皮膚のあれ性の方は必ず朝夕御使用あれひびしもやけ等にかゝることなく又全治する特効を有す彼の恐るべき白粉の鉛毒を防ぐは無論日本流の薄化粧白粉や白粉下を用ゆるの要なく。又つき悪き眞の無鉛毒の白粉を使用前に日ノ出クリームを用ゆれば極めて美しくつき。眞正の美人となることは獨逸國醫學博士エエボーン氏の證明する所さて如何に日ノ出クリームを使用すべきか「初め微溫湯を浸したるタヲルの切れにて面部を數分間溫蒸し自然と顔の毛孔に吸取られたる塵と垢を發出せしめ其後日ノ出クリームの極少量を指先きに付け充分（マッサージ）擦り込たる後はハンカチーフ或は紙にてふき取るべし」尚厚化粧を望まるゝ方は前記の如く化粧後無鉛の粉白粉を用ゆらるゝ時は衛生上有効なるのみならず櫻花の滿開せし如く實に美麗を極べし尚毛髪用日ノ出クリームはコスメチックト水香油を合せし如くにて適度に亂毛を止め毛髪を保護養成する練香油なり化粧用毛髪用共に佳香馥郁の佳品にして衛生的に完備せり

本品は宮内省御買上の光榮を辱す

化粧用は美人劑　毛髪用は練香油

日ノ出クリーム

定價		郵稅
特製	貳圓	（十錢）
大瓶	壹圓	
中瓶	五拾錢	
小瓶	三拾錢	（四錢）
見本瓶	十五錢	

▲純金指輪進呈に付▼本品卅萬個賣切紀念の爲め一千圓に對し純金指輪引替券を瓶の中へ入れ置き候に付若し御使用中小さき金物あれば御注意を乞ふ速時引替進呈可仕候

日本一手販賣元　舶來化粧品商　東京市日本橋區村松町廿二番地　須原啓三郎商店　郵便振替貯金口座七〇九七番

特約店　大和屋、佐々木、脇田、播金、村藤、白川、丸善、廣田

●到所有名信用ある和洋小間物店にて販賣す
●不正商店に僞品あり特製日の出印に御注意を乞
●同業各位に急告、特製見本瓶の儀全部賣切申し出荷延引致居候處此度多大入荷仕り候間改めて數量至急御注文被下度候

○銀側兩蓋之部　流行薄手形
瑞西石入向爪アンクル　價八圓半
同石袴上向アンクル　價十一圓半
同裏三枚惣石袴上向爪　價十三圓半
米國中盤付切天武向爪　價十四圓
米國中盤付上等品　價十七圓半

○金側兩蓋之部　流行薄手形
瑞西國六金側御婦人持　價三十三圓
瑞西十六金側中形紳士持　價六十九圓
米國製十六金中形紳士持　價七十九圓
瑞西18金側形18紳士持　價九十五圓
米國製18金形18紳士持　價百十五圓

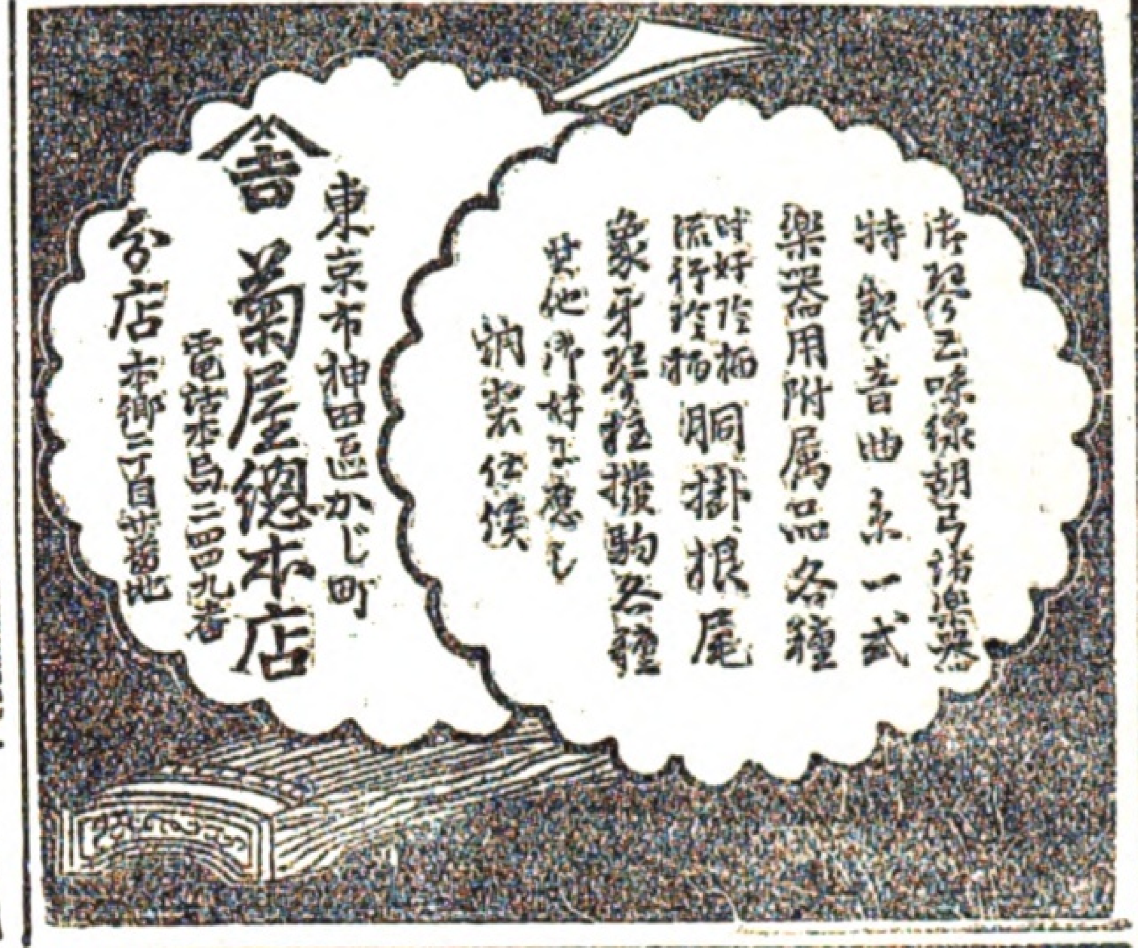
商品案内無代進呈

東京市京橋區銀座一丁目　電話新橋（二三三一）

伊勢伊時計店

洗粉は米國最新最良の特選原料を以て精製したるものなれば自ら皮膚を滑らかにし其色を白くす

東京牛込　山本丕川堂



雜報

▲帝國婦人技藝協會　米國婦人の技藝内職の状況を研究視察して歸朝したる飯島可年子氏は歸朝後京橋區銀座一丁目に題目の如き協會を創設し婦人技藝研究に資する爲め毎月「婦人技藝講義」と題する講義録を發行し居れるが今般地方にある有志婦人に直接教授をなすの目的にて需めに應じ巡回教授をなす由なれば遺族等に職業を授くる爲め設立せし授産場其他一般會員に於て是れを習得せんとする時は講義録に依りて其の大意に通じたる上同氏を一週或は五日間の短日を限りて招聘教授を受けなば少額の費用を以て利益を得ること頗る多かるべし

▲東京音樂學校生徒募集　入學者志望者は履歷書戸籍謄本寫眞及受驗料金一圓を添へて三月二十日までに願出づべしとなり尚詳細は本月十二、十三日の官報廣告を見よ

▲豫科三十人
（イ）受驗者資格、年齡十四年以上中學校又は高等女學校第二學年を修了したる者若くは是と同等の學力を有せる者
（ロ）試驗科目、國語、算術、日本歷史、日本地理、英語、唱歌、體格、但し中學校二年修業者は唱歌、英語、體格、高等女學校第二學年修了者は唱歌、體格の外試驗不要

▲甲種師範科三十人（官費私費生合せて）
（イ）受驗者資格、年齡滿十七年以上師範中學又は高等女學校卒業者若しくは是と同等の學力ある者
（ロ）試驗科目、試問、唱歌、國語、體格、數學、理科、歷史、地理

▲乙種師範科二十人
（イ）受驗者資格、年齡十七年以上高等小學校卒業者若しくは是と同等の學力を有する者
（ロ）試驗科目、國語、日本歷史、日本地理、算術、唱歌、體格、但し高等小學校卒業者は唱歌　體格の外不要

▲試驗期日、
豫科、三月二十八日より▲甲種師範科三月二十七日より▲乙種師範科三月二十七日より

▲附屬女學校專攻科生徒募集　女子高等師範附屬高等女學校にては其專攻科第一部二部共初學年生徒を募集せり
△入學志願者は修業年限五箇年の高等女學校卒業又は之と同等の學力ある者△入學試驗は四月四日より三日間△志願者は三月卅一日までに願書履歷書を差出すべし△詳細は本月二十日廿一日廿二日の官報廣告欄にあり

▲女子大學の新計畫　實驗實習の設備を完うせん爲め今回理科敎室二棟を增加に伴ひ新たに七棟の寮舍を建築するの議を決し既に化學敎室と寮舍二棟は落成し其他は目下工事中なるが尚來學年よりは文學科を文學部と改稱する由

▲精華女學校生徒募集　府下淀橋字角筈なる精華女學校にては來る四月開始の新學年に高等女學部及技藝部各一年より三年まで夫々入學を許可する由にて尚ほ他に別科として活花割烹科等あり詳細は同校に就いて規則書を請求せらる可し

▲成女學校生徒募集　同校にては從來の高等女學校程度の上に文學家政の二專門科を置き女學校卒業者を入學せしむべしと云ふ

▲女子美術學校　同校は昨年末谷中なる舊日本美術院の建物を讓受け敎室等の改築中なりしが此程落成せしを以て既に授業を開始し居れり

貴婦人用最新形
旅行携帶化粧道具各種
佛國製リボン、造花化粧品
新着御婦人裝飾品種々
特に內外流行界の精粹を蒐め其良品を最も廉價に販賣仕候

東京牛込神樂坂下　朝日堂

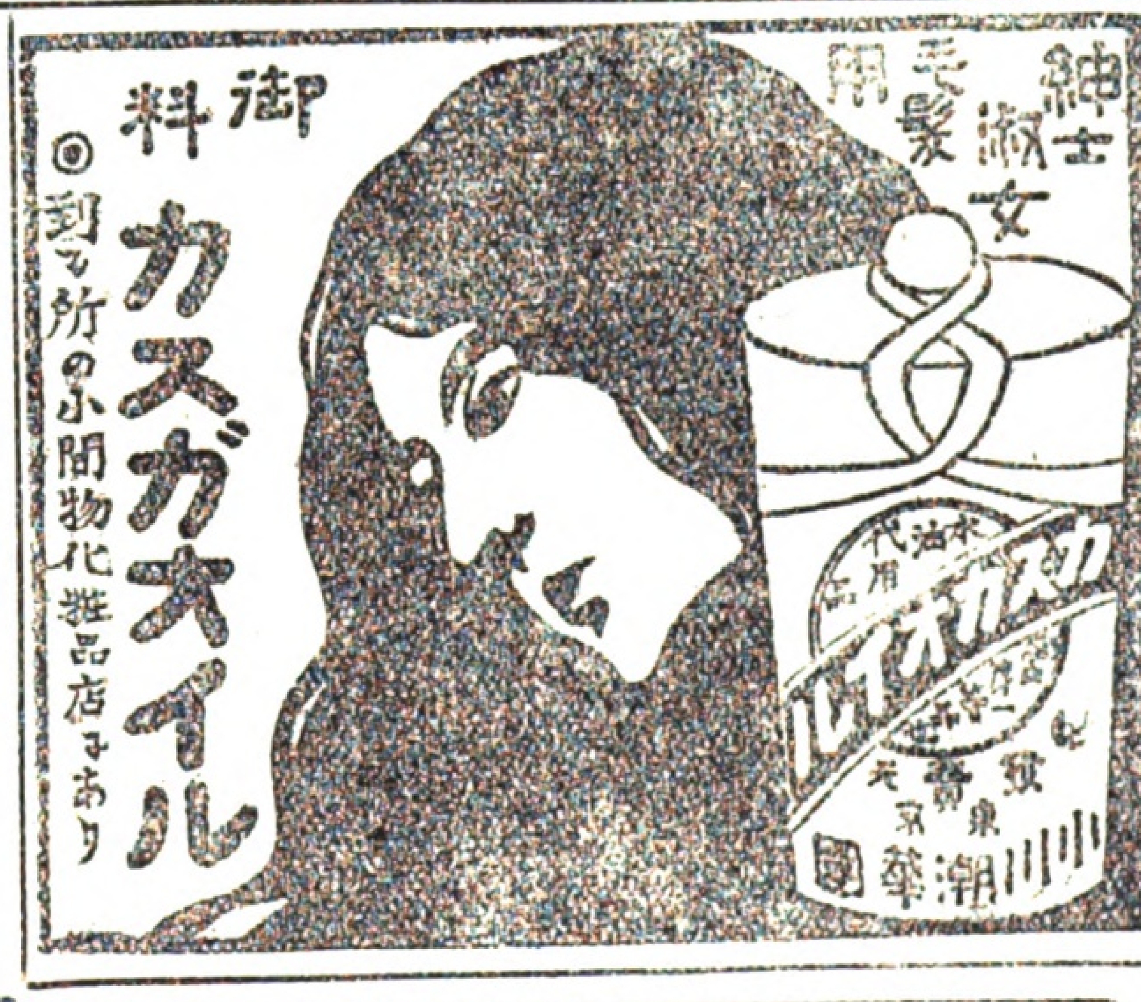
第五回博覽會賜褒賞

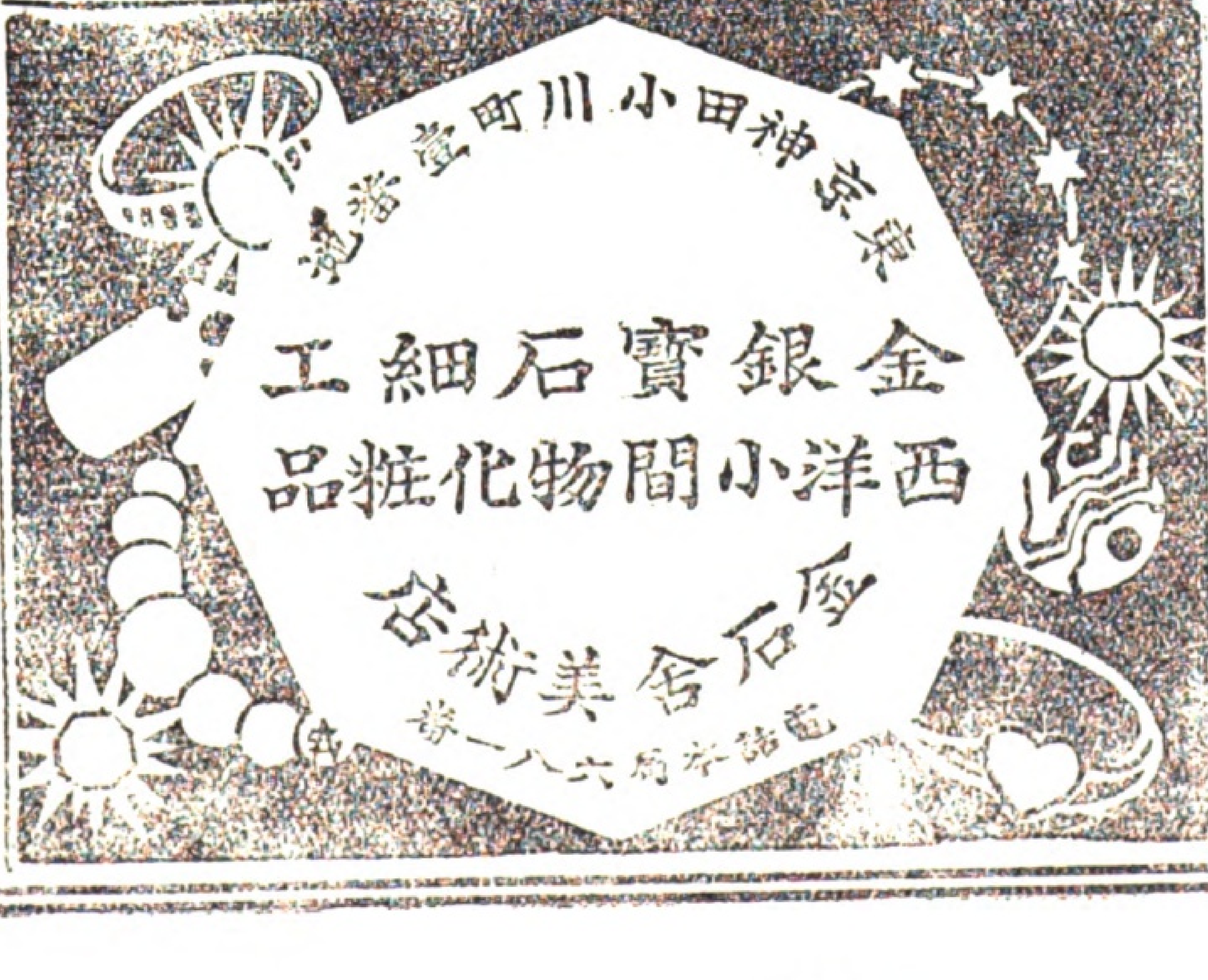
▲正定價引なし

營業品目　特許鑪各種　特許据風呂　特許テンピ　特許水焜呂　實用暖爐　鍋釜品々

日本橋區蠣殼町二丁目十五番地　神田泉町通松永町十八（電話浪花一一七七番）

名和本支店





Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

女俳優マダム
川上貞奴
佛國みやげ

ヤッコ

此ヤッコで顔を洗ひますと色を白く艶を出し顔の小皺をのばす西洋薄化粧料ゆへ日本流の薄化粧や白粉下などを用ひるに及びません

●定價一罐廿錢全國送貫四錢三罐美麗函入五十五錢同送貫十錢（此箱入には西洋男女化粧法の秘傳をくわしく書たる美本を添ゆ）

東京神田區御成道田代町九番地
ヤッコ日本一手發賣元
原品直輸入元　地球堂　田中丹治

春季節柄
嶄新模様　半ゑり帯揚類

○都花縁レースショール○絹毛織ショール○肩裏地○長襦袢○襦袢袖○伊達巻下締め○おこそ頭巾地○男襟巻○ネクタイ○帛紗○ゑり治形○すゝめ形○紀念形○手から

新橋竹川町十二本店　ゑり治
新橋新○二七
神田表神保町壹番地支店
電話本局九五二　ゑり治

◎和洋バイオリン新着◎西川製風琴

紙腔琴

舶來手風琴

◎配用曲目二百五十餘種出來
●定價上製金十五圓同中製金九圓五十五錢
●小形定價三圓三十錢三圓五十錢四圓五十錢七圓四十錢八圓六十錢
●大形金七圓五十錢

西洋横笛（ハーモニカ）

●定價金卅錢四十錢五十錢六十錢七十錢一圓五十錢一圓廿錢以上

新案遊戯　闘球盤

●金一圓五十錢二圓五十錢三圓五十錢五圓五十錢

發音器
定價金二十五圓金四十圓金五十圓金五十八圓金六十圓金八十五圓

◎長原政二郎著　舞踏必携　ダイアモンド
正價卅錢郵税二錢
歐米各國舞踏大觀

東京銀座三丁目二番地
十字屋樂器店

資本金千八百萬圓

東京京橋區木挽町
株式會社　十五銀行
電話新橋一三三〇番一五三〇番一九三三番

同日本橋區新乘物町
同　日本橋支店
電話浪花一九〇一番二七四番三五〇八番

一定期預金　六ヶ月以上年五分
一當座預金　日歩七厘以下
一特別當座預金　同

めをぬぐひがミ

新案　小間物
新橋際博品館内支店
小川町通東明館内支店
帝國五二館内支店
東京神田區通新石町本店
三井屋商店
電話本局二〇七六番

日本政府登録濟

イケムスクオイル
ブーケムスククリーム
ブーケムスク香水
ブーケムスク煉水白粉
ブーケムスク化粧

日本輸入一手販賣
ガマ印齒磨本舗
内外石鹼化粧品卸商
東京市日本橋區馬喰町四丁目
龜岡亀王堂

胃病良藥
太田胃散

きらぶ赤毛の人に告ぐ

○二瓶一組小五拾錢○同大壹圓○送料拾錢
該液剤は獨逸國博士の發明に弊店多年の試驗剤を加味せし新薬にして僅か十分間にて染上り黒き光澤を發し美麗なるは烏羽の如し而して永久禿げる事なし其理由は毛髪中に硫黄質を含めるものにて此の硫黄質と液剤と毛中にて化合酸化硫黄となりて黒色を表出するものなれば禿る疑なきは明白なる事實にて皮膚に無害なるは弊店保證致ます

毛染所　東京京橋本材木町三ノ四　岡田藥店

最上醬油元祖

○宮内省御用達也
○開業二百六十三年
○品質の吟味嚴重也
○風味他品に超絶す
○日本一の釀造高也

釀造元
下總銚子町
濱口合名會社
（振替貯金番號五〇二一）

消化新藥

醫學博士井上善次郎氏の實驗報告に曰く

胃腸障害は往々疾病誘發の根元となり、又疾病治癒の轉居を遲鈍ならしむ、而して胃腸障害の內、澱粉を不消化に因するもの甚だ多し。殊に米飯を常食とする本邦人に於て然りとす。之を救濟する一に完全なる澱粉消化藥あるのみ、此目的に向て、余は高峯博士の發見に係るタカヂアスターゼを使用し、好果を收め、此種の製劑中最優等のものたることを確信す。

醫學博士栗本東明氏の實驗報告抄錄

高峯博士發見のタカヂアスターゼが唯一の澱粉消化藥として著大の効力を有するとは業に既に世の定評あり今や予は其實驗に基きタカヂアスターゼが結核患者の消化障害に對する著效を確認すると共に此種の患者に毎に之れが服用を勸告する者なり

錠劑粉末各大小容器入各地藥舖にて販賣す模造品あり必ず高峯氏タカヂアスターゼと乞御指定。

實驗報告集は無代進呈

登録商標
市內御用向節達一報次第何時に依らず
羽おり紐 簪しん
定價表ハ御申越次第直ちに呈送仕候
東京日本橋區
伊竹組紐舗

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

從四位淺田宗伯先生直傳
淺田飴
たんせきに
淺田あめ
すきはらにめし

良藥にして口甘し
定價　金五拾錢　金參拾錢　金貳拾錢　金拾錢
本品全國到る處の藥店に販賣す
本家　東京神田鍛冶町　大阪北久寶寺町　堀内伊太郎

▲新公論（一部金十二錢）
▲口繪　◉彩色石版畫三板恐美麗◉東京勸業博覽會全景◉名家の令孃寫眞◉新婚寫眞◉和服の獨逸婦人
▲第二回大懸賞珍附錄當選發見方法發表
◉私の肺病全治實驗（野村敏子）
◎女中奉公より成業せる女學生
◎小兒感冒の手當（加藤博士）
◎少女欄
◎雛祭と雛道具保存祕法
◎電話交換手の實歷談
◎子供部屋の造方と設備
弦齋氏執筆益好評
發行所　東京市本鄕區東片町　新公論社

見よ陽春の盛装を凝らして出たる婦人界
婦人世界
三月一日發行二卷第三號　一冊拾五錢郵税一錢五厘六冊郵税共九拾錢
娘時代の生活法　村井弦齋
△心の修養は如何にするか△我儘の癖は如何に矯むるか
△虛言の癖は如何に矯むるか△依賴心は如何に矯むるか
△多辯の癖は如何に矯むるか△嫉妬心は如何に矯むるか
◎自由結婚の實行者鳥居女史（面影）
◎インフルエンザと鼻の注意
◎米國大統領候補者ブライアン氏夫人（下を繕ふ）
◎弦齋夫人三月料理（くわひ△嫁菜飯△ムツ）
（書生の靴）山下米國文學博士
實業之日本社　東京京橋南紺屋町十二　電話新橋八百七十四番

春花に先だちて滿開せる少年雜誌
日本少年
三月一日發行二卷第三號
◎一冊拾錢郵税壹錢六冊郵税共六拾錢◎郵券は一割增
◎新案懸賞當て字◎
第二回大懸賞珍附錄當選發見方法（懸賞彩色繪葉書）
大珍文
◎蚤の相撲（珍絕奇絕）
◎蔬菜君の演說（繪入）
◎人間奇談（繪入）
冐險
◎怪島の寶取（水蔭）
◎汽車曲乘の少年
◎昔は新割り今は日本一の小說家
◎昔は屠牛者の子今は大商人
◎卒業式
◎化かされ狽
◎五人兄弟
◎花と蟲の關係
お伽噺
郵便振替貯金口座參貳番（六）
實業之日本社
賣捌全國各地書店

懷中要藥
清心丹

製造元　胡蝶園
畏き邊りの御料に召させ給ふ
完全無鉛
高貴御化粧料
御料　御園白粉
ねり製　御園白粉
水製　御園白粉
こな製　御園白粉
洋風化粧クレーム　御園の蕾
高尚化粧水　御園とき水
市松ふきしうちん粉（?）　御園なでしこ
濃厚化粧水　御園四季の花
高尚香水油　御園香油
高尚香水　御園香水
高尚はみがき　御園齒磨
發賣元　東京日本橋區橘町四丁目　丸見屋商店　電話浪花四番

松澤謹製
◯色白く艷をだす最良之化粧石鹼（大形廿錢小形拾錢）
松澤ホーサン石鹼
◯到る所に販賣す（にせ物）あり松澤ホーサン石鹼と御買求を乞ふ
東京本石町四丁目　光藥香和間屋　ムスク香水本舖
松澤常吉
（振替貯金四四四七番）

歐米各地最新輸着
新多精優比廉
品種巧美較價

東京市神田區須田町六番地
中村時計店
電話本局一〇九〇番

（ラクダ印）

ラクダ印麝香石鹼は高貴なる麝香に愛すべき香料を多量に含むが故に常に使用せば其香氣身体は元より手拭タオルハンカチーフ及び浴後のゆかたに至るまで移りて一大特點を有す
麝香石鹼
ミレ
香いたし五日間は散布としてかほりを失なはざる効力は舶來品にも未だ見ざる
○（定大形廿錢）（價小形拾錢）
近來類似品有「ラクダ印」と井上に御注意
（熱心勉强なる和洋小間物化粧品店にて必ず販賣せり）
東京本石町三丁目十八番地　井上太兵衛

皇孫殿下御用
東京名物
風船あられは輕味淡泊にして滋養に富み且遠路への御土產物には尤も適當の良菓子なり
東京市下谷東黑門町七
本舖　東英堂

補血良劑
ヘマトール無臭肝油
補血劑として稀世の卓効を有する新藥にして僅かも惡臭を存せざるのみならず飲用に適すに香氣を有するを以て婦女子も尚喜びて服する事を得べし
東京日本橋區本町四丁目
合名會社島久商店
（電話本局特四九一一）（電話本局三〇一八）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

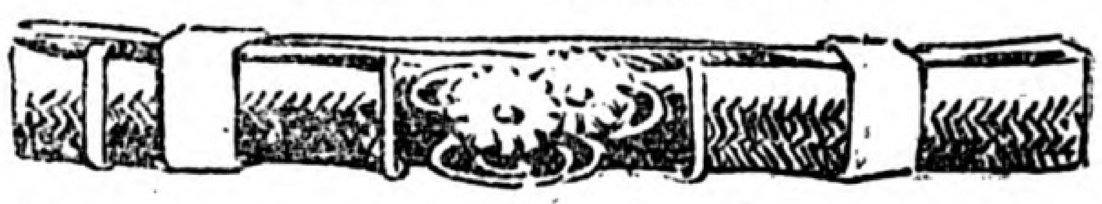
高等御婦人用小間物各種

美術貴金屬袋物商

東京日本橋區人形町通り

澤田治助

電話浪花二五六九番



洋織物 裁縫物 毛布 敷物類

何なりとあり有まいと御申召品も御尋下さい

西洋酒罐結食料品

清酒壜詰 世界長 御進物用美麗箱入

最上清酒

世界長は内務省衛生試驗所に於て、試驗を經たる最良清酒なり

世界長は器械口瓶詰なれば體裁最も美麗にして用量を定めて飲用するの便宜あり

壜詰 一升入 四合入 貳合入 一合入の四種

東京日本橋區堀江町四丁目（通稱てりふり町通り）

發賣元 高橋商店 電話浪花一五六一番

最上醬油 キハク印

於聖路易博覽會 名譽大賞牌受領

キハク印

醬油の味がよくて調理にかなつて居ると云ふことは皆さん一般の評判ですどーか其あぢのよくてそして經濟であると云ふことを御ためし願ます

醸造元 千葉縣野田町 茂木七郎右衛門 信號（キハク）又（ハク）

東京支店 日本橋區小網町三丁目 中野長兵衛 電話浪花五七七四

東洋一 製造大販賣 御小賣

夜具・蒲團・蚊帳・ざぶとん

●上等並等澤山あり御好次第山の如し電車の便あり小川町東明館前に下車を乞

東京神田區表神保町 矢田商店 電話本局長二〇八

諸官省御用

●綿質保險附 ●確實大安賣 ●縱覽御隨意

市内無賃配達

徳用 大俵山炭 堅炭 土釜

右大俵炭は山出しのまゝにて壹俵の目方は拾貫目内外皆かます入に候賣買は目方に掛け候故至極御經濟の燃料に候間是非一度御ためし願度御用の節は電話又は端書にて被仰附候へば遠近多少を問はず無賃配達仕候

東京市神田區三崎川岸 電話本局三千貳百八番 戸塚商店

日本元祖西川洋琴

高尚なる音樂の嗜好は

家庭の和樂を作る基なり

宮内省御用東京音樂學校御用

横濱市日の出町二丁目（電話八四一番）

西川オルガン及ピヤノ製造所

東京販賣店 十字屋樂器店 東京市銀座三丁目

關西代理店 武内樂器店 大阪市東區順慶町四丁目

《西川洋琴の聲調は舶來品に劣らずと專門家の讃詞を得たり、定價表は御申込次第進呈す》

花見衣裳賣出し 三月五日より十日迄六日間

右爲餘興左記の景品二千個を一組とし當日御買上品の御仕拂金額五圓以上五圓を増す毎に景品券入封筒一袋づゝを呈し目前にて開封直に其景品券記入の品と引換差上可申候

品目

一組に對し

縮珍丸帶 三本	一本代	三十圓
白縮緬小巾 三反	一反代	十八圓
秩父名仙 五反	一反代	六圓
黒朱子片側帶 十本	一本代	二圓八十錢
玉紬 廿反	一反代	二圓
羽二重金巾 卅反	一反代	一圓
緋金巾 五十反	一反代	七十錢
敷布 百枚	一枚代	五十五錢
晒木綿 二百反	一反代	五十錢
帶締 二百本	一本代	卅錢
羽織紐 三百本	一本代	廿五錢
風呂敷 三百五十枚	一枚代	十五錢
御ぬいに糸 三百五十個	一個代	十五錢
手拭二筋 三百七十九組	一組代	十二錢

（大）下村呉服店

東京市日本橋區通り旅籠町

電話浪花 長八三三、六六三、六〇五番

○最も安全なる買物○

東京神田區千代田町

東京買物用達合名會社

白ゆり白粉は東京市内に賣捌つゝある白粉舶來品共四十四種に付き内務省衛生試驗所の試驗に於て無鉛白粉として第一に表明せらる

白ゆり白粉は梨園の花たる芝翫、梅幸、高麗藏、羽左衛門等の常に愛用せらるゝ最優等無毒の逸品なり

東京本所 井手製

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

新刊
新女訓

女子高等師範學校教授文學士　下田次郎先生著

クロース製　全一冊　定價金八拾錢　郵税拾錢

本書の世評

●日本の小學教師亦女訓として有益なるは申すに及ばず、文章女著者一家の風ありて趣味津々たる者也●婦女新聞　卑近なる題目を提へて平易なる文字を以て縦横無盡に論じ說き數へたる所、著者の面影を髣髴せしむるものあり、論旨は穏健[illegible]よく今日のわが[illegible]に適へ、文章は雅俗を折衷して、[illegible]●萬朝報　此書[illegible]●丁酉倫理會講演集　[illegible]

所の主義は、飽くまで生々活動にして、著者が左右縦横、其の豊富なる材料を拉し來りて、視切丁寧に、新日本の要求に應ずる新女子の理想を説く所、吾人の双手を擧げて賛同せる所なり●日本[illegible]●時事新報　時代の要求を知らんとす[illegible]一讀して相當の刺戟を得べきを信ず

發行所　東京神田區錦町一丁目十番地　明治書院

登錄商標　N.R. CO

ゴム裏雪踏

●發賣元　東京市神田區上白壁町九番地（電話本局貳千五百五十參番）　今井商店

●販賣所は全國到る所の有名なる履物店にあり（近頃粗惡なる類似品あり商標に御注意を乞ふ）

CHEMISTSOAP
ケミストソープ石鹸

（衛生家の一日も欠くべからざるもの）

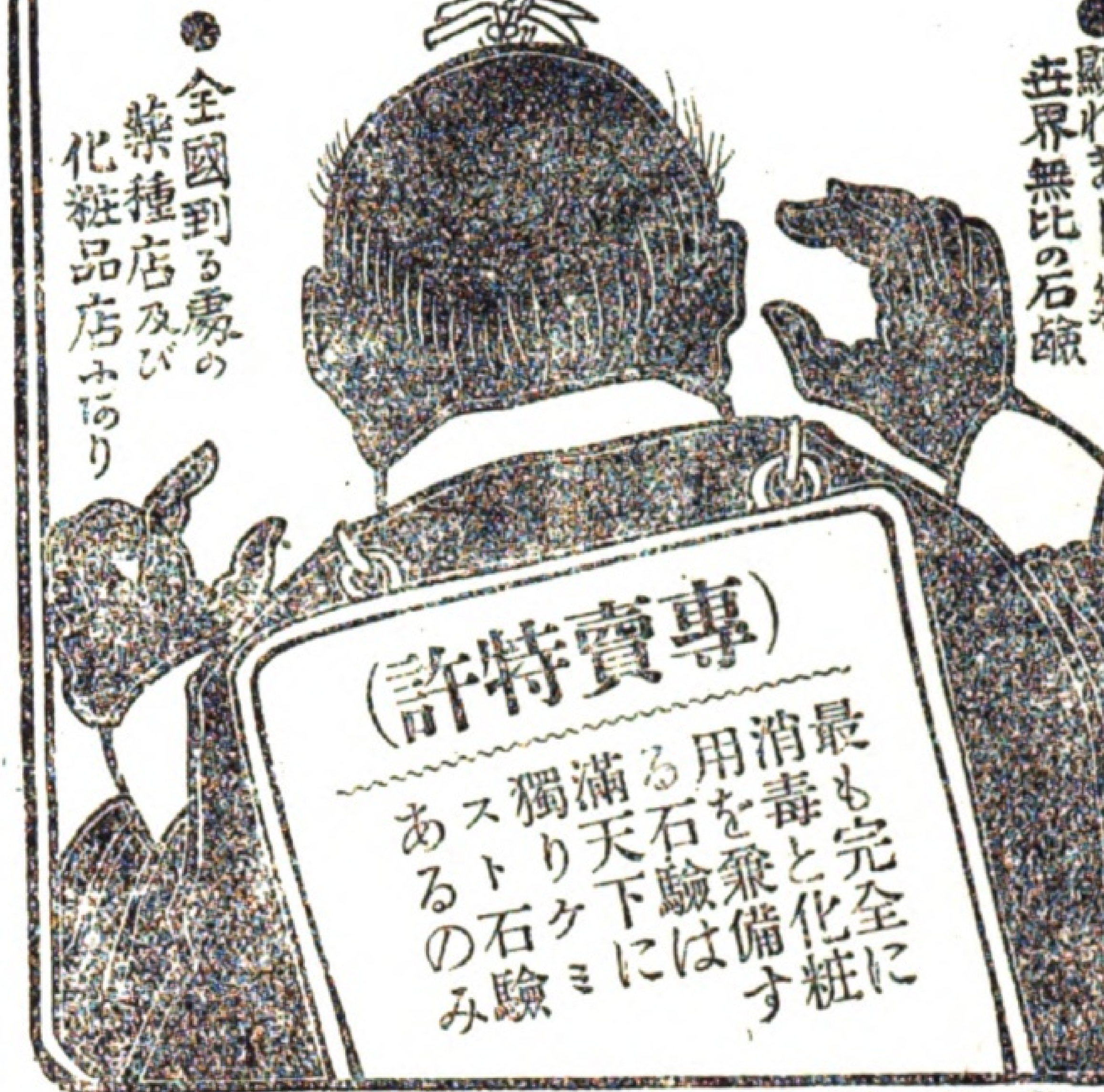
御試用の上該品の特長を知り給へ

●消毒用

●化粧料

●[illegible]　世界無比の石鹸

●全國到る處の藥種店及び化粧品店にあり



發賣元　東京市日本橋區本町四丁目　島久商店　長電話本局（四九一　三〇一八）

阿部彦四郎商店

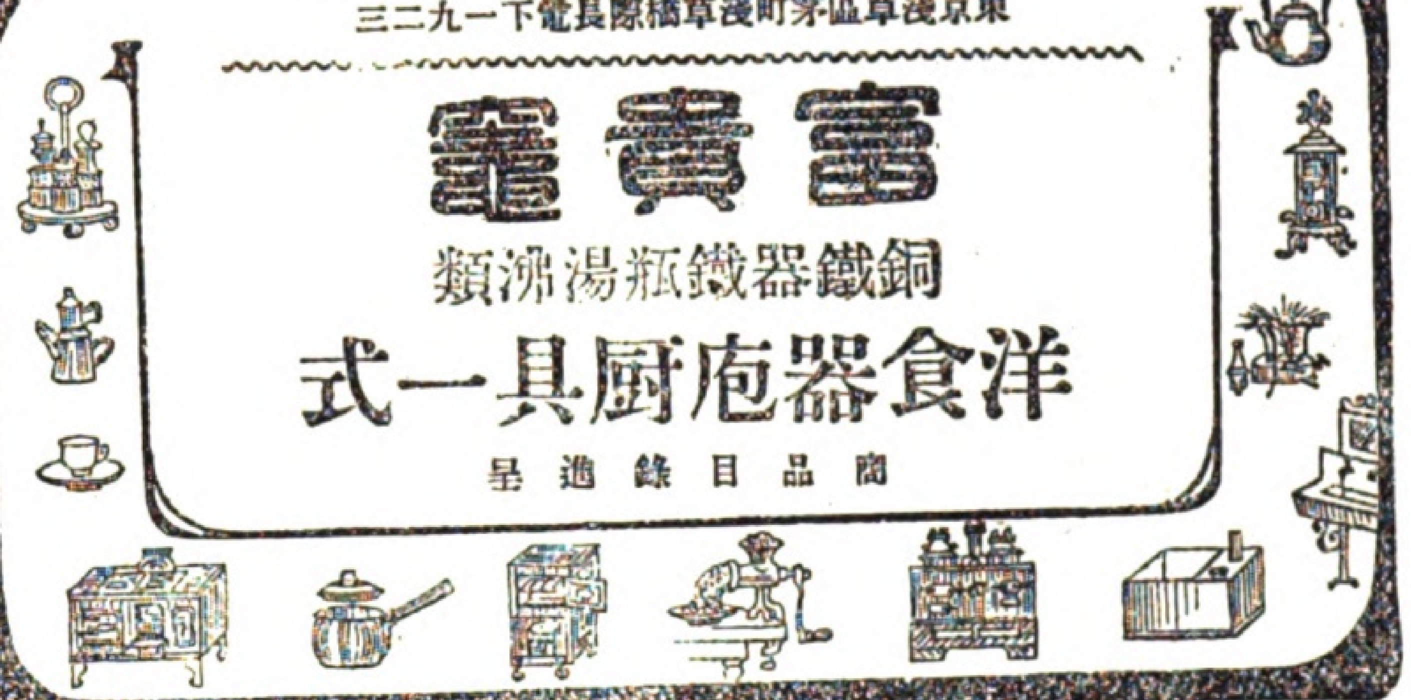
東京淺草區茅町淺草橋際　長電下一九二三

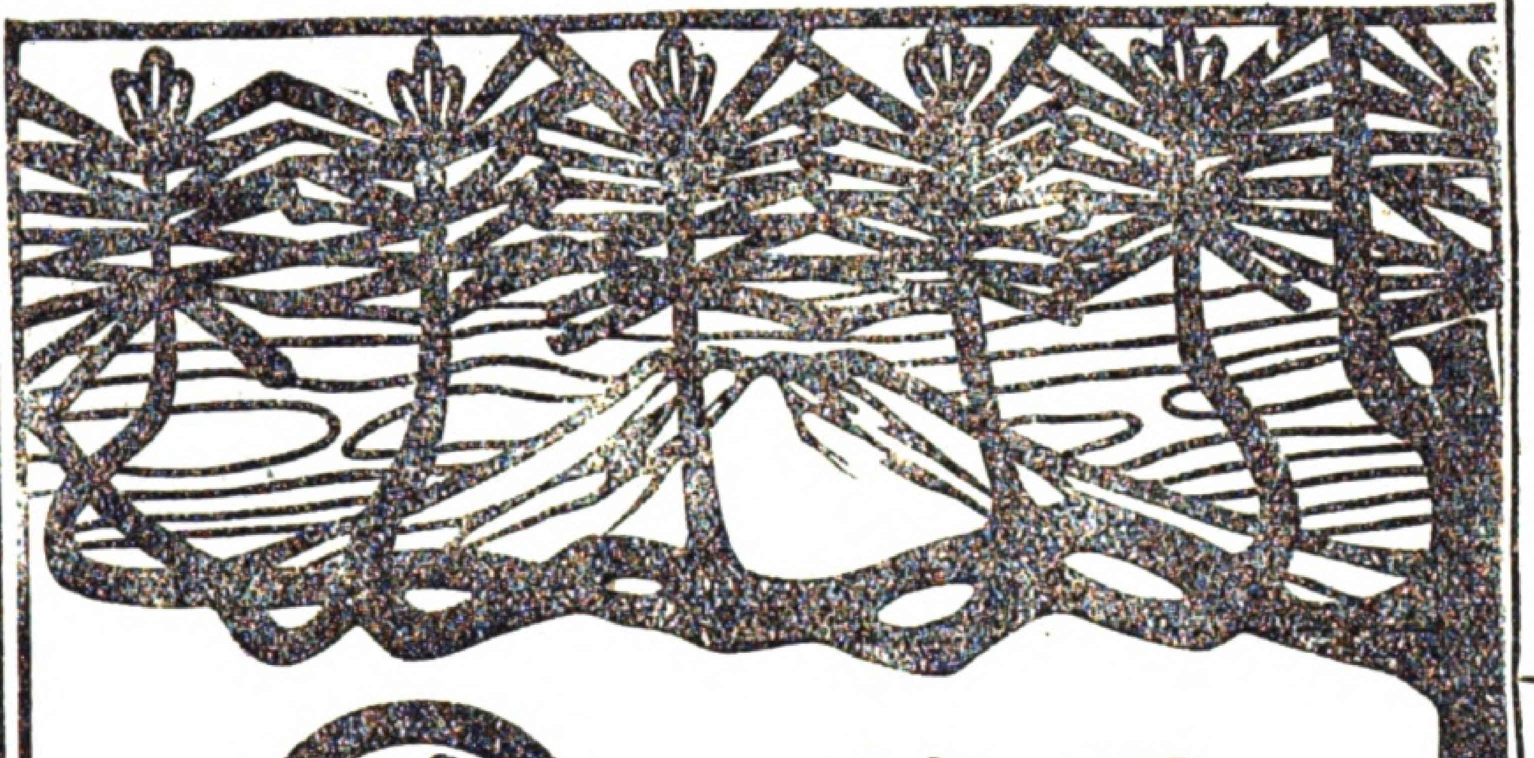
富貴竈

銅鐵器鐵瓶湯沸類

洋食器庖厨具一式

商品目錄進呈





最新流行

呉服、太物、洋服

小間物、雜貨類

東京市日本橋區駿河町

三越呉服店

各女學校御用

附屬品幷に造花器械類一式

東京市日本橋區横山町一丁目十六番地

天野卯兵衛

電話長浪花一六四三番

營業目錄御入用なれば愛國婦人を見てと御書添へ御申越被下度候

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

東京市麴町區錢瓶町（常盤橋内）
日本興業銀行
電話本局（三、三〇〇番 四一番 三七番）（特）一〇二番
資本金壹千七百五拾萬圓
營業科目
一 擔保附社債に關する信託業務
一 有價證券其他貴重品等の保護預
一 有價證券の賣買元利金の支拂及び取立
一 地方債、社債、株式等の發行募集事務
一 各種の信託事務
一 國債證券、地方債證券、社債券、株券の擔保貸付及手形の割引
一 國債證券、地方債證券、社債券の募集又は引受
一 法律規定に依り設定したる財團を抵當とする貸付
一 定期預金、當座預金、特別當座預金

東京市日本橋區通一丁目
合名會社 森村銀行
電話（特）本局六七三番 電話本局四九八番
定期預金 六ヶ月以上 年五分五厘
當座預金 百圓に付日歩 八厘
特別當座預金 同日歩 壹錢壹厘

東京市日本橋區小舟町三丁目
株式會社 第三銀行
電話浪花四一二番 浪花四五一番
預金利子
定期預金 六ヶ月以上 年五分
當座預金 百圓に付日歩 八厘
別口當座 同日歩 壹錢
全國送金每手數料
其他銀行一般の業務を便宜取扱可申候

◎牛豚肉販賣及西洋料理◎
品質佳良の肉類廉價に販賣配達は迅速に且つ正確に致候滋養と風味の西洋料理調製候西洋料理出前は格別相働き候米店は精撰の白米廉價販賣候御注文は電話又は葉書て願候
小石川表町廿二番地 電話番町六五九 西川本店
本郷區駒込東片町五番地 電話下谷二二七一 西川支店
小石川表町十一番地 電話番町一〇六一 西川洋食店
小石川表町十八番地 米穀商 西川嘉門

スコット乳菓
小兒ノ發育期ニ用ユレバ其ノ效驗著ナルハ最モ明證スルモノナリ
説明書ハ横濱郵便局私書函第五十八号スコット乳菓部ヘ申込アレバ無代價ニテ進呈ス
代理店 横濱市山下町廿八番館
米國貿易商會

京橋銀座一丁目 木村屋

東京平尾賛平商店

誇乃親玉
東京日本橋區長谷川町 卸部 美濃磯本店 電話浪花二八五九番
小賣部
本郷區本郷五丁目 美濃磯本郷支店 電話下谷二一五番
淺草區諏訪町 美濃磯淺草支店
日本橋區佐内町 美濃磯佐内町支店
神田區小川町 美濃磯神田支店
深川高ばし際 美濃磯支店
芝區新櫻田町 小田商店
牛込區神樂町二丁目 伊澤商店
四谷區傳馬町一丁目 伊澤支店

院長 醫學士 鳥山南壽次郎
鳥山内科院
京橋區鎗屋町十一番地 電話新橋千七百四十六番

午前診察 午後往診
小兒病診療
宅診午前 往診午後
淺草區福井町貳番地
醫學士 内田愼太郎
電話下谷七一八番

產科婦人科專門 ドクトル 樋口繁次
歸朝後於本院診療に從事す
二各科 診察從前の通
東京病院
芝愛宕町 新二六四 同二六二〇

◎婦人科 ◎小兒科專門 午前宅診 午後往診
東京市麴町區飯田町四丁目九
女醫 鷲山彌生

杉原耳鼻咽喉科醫院
生義多年東京醫科大學耳鼻咽喉科に勤務の處今般辭任の上專門診察に從事す
診察 自午前八時至午後三時 杉原正壽
神田區錦町壹丁目（青年會館前）

小兒科
乳兒ノ疾患及ビ小兒皮膚
拙者儀久ク獨逸伯林大學ニ於テ斯育法專攻シ歸朝後每日診療ニ從事ス 學病見
ドクトル メヂチーネ 長井岩雄
日本橋區數寄屋町一（電本百八十）

◎婦人病專門
院長 櫻井克己
芝明舟町十九虎門外宮樣前 電話新橋三三二四
櫻井醫院

◎水原產科婦人病院
○所在神田區猿樂町十二番地（電話本局千八〇九番）○外來診察午前中○入院往診隨時○同院に私立產婆學校の設あり

内科一般 午前宅診 午後往診
東京神田區美土代町三丁目十七番地
板垣亨
電話本局貳千九百七十番

眼科專門
神田區連雀町十八番地（郵便局前）
ドクトル メヂチーネ 宇良田唯子
▲每月第一日は藥價診料共無料

第廿六回 第三回
產科婦人科學講習
高等產婦科新學期
東京日本橋區濱町三丁目七番地
楠田病院

院長 醫學博士 榊順次郎 每日午前診察
副院長 醫學士 久保德太郎 每日夕刻診察
婦人科產科榊病院
東京麴町三番町卅三（電話番町三九五）

内科小兒科 特に呼吸器病
麴町はやぶさ町二十八番地
ドクトル 川瀨元九郎
電話番町八二二番

神田區西今川町三番地（電話本局三〇一九）
内科病特に腦脊髓神經疾患
院長 ドクトル メヂチーネ 峰秀世
峰内科醫院

秘尿生殖器科○梅毒科 午前 午夜
牛込横寺町二八 郵便局上左横町
杉田醫院

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人廣告取扱

京橋區數寄屋橋外 弘報堂
神田三河町 博報堂
京橋區南紺屋町 一星堂
京橋區南鍋町 秀逸社
日本橋區上槇町 萬年社
日本橋區箱崎町 春風舍
京橋區宗十郎町 正路喜舍
京橋區日吉町 帝國通信社
同區彌左衛門町 京華社支店
同區南鍋町 廣告社

洗用 ワツセル

◉此ワツセルは油じみ油あか如何なる汚れても採ずに必ず落る石鹸曹達の如く布を損傷せず染色を褪さず費用と手數を省く經濟上有利なる日用品であります

◉用法は湯一升に二匁（小杯へ半分餘）の割合にて溶解し洗濯物を凡二時間浸し採ずに置き後湯又は水にて洗へば自然に脱ますシヤツの如きは（拾貳号）入一本にて貳百枚は必ず洗へます御婦人の髪は一匁五分を一升の湯に溶解してかもじを洗う用に採ずに除べしされば玉子で洗た様になります又食器臺所道具を拭き掃除にも有効です

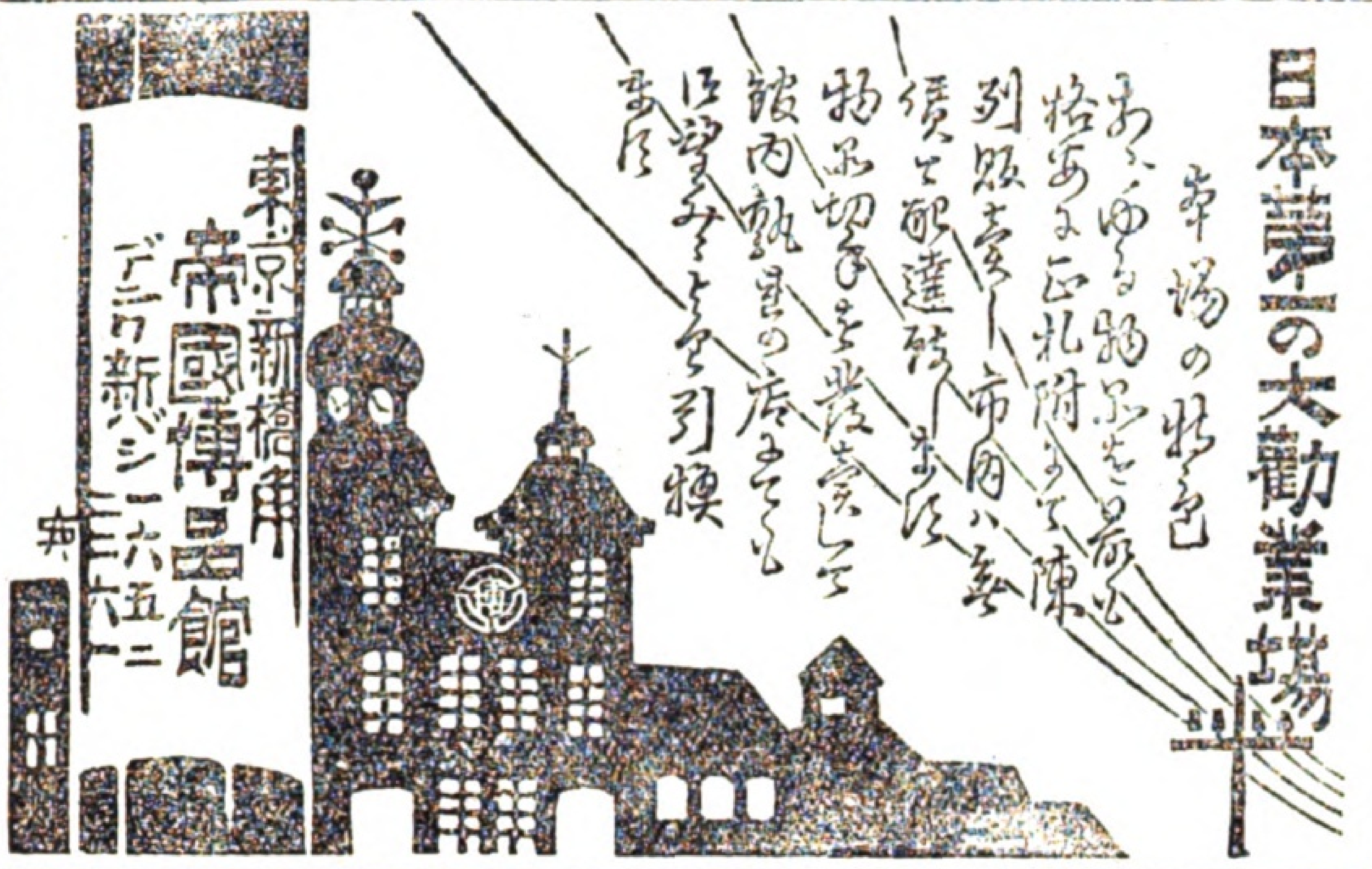
定價 拾貳号入 金拾五錢 六号入 金八錢 袋入二錢

芳香御肌洗粉 ワツセル

◉此肌洗粉ワツセルは當時歐米各國貴族社會に流行する芳香類を加味し製造せしものなれば朝夕御使用の方は香氣馥郁として肌持々すおしろいしたを用ひずして御化粧が出來ると妙なり

定價最上 金七拾五錢 金貳拾錢 普通 五拾錢 六錢 參拾錢 三錢 拾七錢

東京市京橋區三十間堀三丁目 電話新橋一七一二
外國製ワツセル日本一手販賣元
御肌洗ひこ芳香ワツセル製造元
三友商會



農村の幸福法

愛國婦人記者 手島益雄氏著

全一冊 定價金三十錢 郵税金四錢

本書雜誌評

▲農業雜誌 所說穩健にして而も進歩的、之を行るに流暢なる言文一致體を以てせるが故に、面のあたり諄々たる著者の謦欬を聞くが如き感あり。余輩は農家が適に之を閲讀して卒先其の實行者となり其の惠に浴する人となられんことを望む、本書の目次を示せば上編は家庭・教育・宗教・自治・産業・公共・慈善・衛生・會合・娯樂の十三章、下編は家庭暦を作れ、臺所の設備は如何にすべき乎、如何にせば貧乏になれる乎の三章也

▲農事雜報 愛國婦人會の手島益雄氏か自治協會に捧げられしものにて、如何にすれば農村か時代に適應せる家庭を組織し得るかまた如何にすれば一村一家幸福を増進し得るかを親切叮嚀に說述せられしものにて上編には家庭、教育、宗教、自治、産業、公共、慈善、衛生、會合、娯樂の十章後編には家庭暦、臺所の設備及び如何にすれば貧乏になるかの三章を載す讀みもて行くに總じて着實にして實際的に重きを置かれしこと明らかなれどもあまりに農村の幸福を誇張せんとして間々獨斷的の文字理想に偏せるもの少しとせず、然れども文章明晰にして意義通じ單に農村のみならず著者が直接に關係せる愛國婦人會員中に遍れく本書を通讀されんこと望むものなり。

▲鑑女 劈頭第一『讀んでこの書を自治協會に呈す』といふ、人の提灯で道を照らす流に、出版者に一頁を奮發させて、自分の義理をする、それもよく／＼大切な人て、その人の恩澤によつて此書が出來たといふ位のなら未だしも、隨分思ひ付放題に、寧ろそれをせれば損の如く心得らるゝ如き觀あるを苦々しく思ふのてあるが、自治協會といふので、これは我意を得たものとして、流石に手島君たるやり方てある、本文項目を家庭、教育、宗教、自治、産業、公共、慈善、衛生、會合娯樂に分ち、親切叮嚀に、世間より割に合はぬ、一本調子の勞働者と目せられたる農者に、至大の幸福を說いたものてある、故に本書は單に農村と限らず、すべて勞働者は一讀すべき價値がある。

▲時好 本書說く所曰く家庭、教育、宗教、自治、産業、公共、慈善、衛生、會合、娯樂、家庭暦、臺所の設備、其說く所平易しかも之を實にし得るものなり、其說や溫健しかも一種の味ふべきものあり、就中「如何にせば貧乏となるべきか」といふ一文の如き出色の文字にして、世を諷し、人を誨ゆること鄭寧反覆、一讀痛快を覺ゆ。單に農業に從事するものにかぎらず、地方自治に趣味を有せるもの一讀を要す。

發行所 東京本郷區東片町百十一番地（振替貯金口座三二四〇） 新公論社
取次所 東京麹町愛國婦人會内（電話番五二〇） 愛國婦人發行所

金銀盃類

貴金屬寳石美術品袋物一切何品に依らず迅速と廉價を旨とし誠實に新調又は改作の御用相勤め可申候間何卒一層の御引立を以て多少に不拘御下命被下度奉願上候

宮内省御用達 玉寳堂 電話下谷 特九六五番 一二四四番

英明氏清方氏書

實價金三十五錢 郵税金四錢

現在某省に女子判任官の椅子を占むる一美人の前身は何ぞ妖婦か節婦か凝婦か試に之を繙き彼が生涯の歷史を讀め……。

東京日本橋區通四丁目 春陽堂發兌

婦人雜誌界の女王

女學世界

三月五日發行 第四號 正價廿錢 郵税二錢

口繪 △繪葉書△水彩畫△毛筆畫△人物△風景等

◉婦人の世界眼……伊藤鈴子
◉卒業試驗……楓蔭
◉舊鬪的婦人の半生……胡劒生
◉絶代の悍婦 絶代の英傑……吊花
◉憐れむべき女子の犯罪……登坂北嶺

△女學生問題 戸板關子
△禮義の修養 某博士
△新式幼稚園 甲賀ふじ子
△蒙古別天地 鳥居きみ子
△婦人の履物 觀風子
△來朝の二大樂師……三島霜川
△新生命（小說）
△新即新婦へ 湖處子

前金 四冊七十五錢 ◉八冊（半ヶ年分）一圓四十五錢 ◉十六冊（一ヶ年分）三圓八十錢 △郵税一冊二錢宛

東京 博文館 全國各雜誌及書籍店

少女諸姉の好伴侶

少女世界

三月一日發行 第四號 正價十錢 郵税一錢

口繪 春の草花（石版彩色）雛まつり（石版彩色）◉我笑顏◉花一枝◉雨中の櫻◉三輪田小學校（以上寫眞帖）

◉おとぎばなし 熊少女橋（巖谷小波）
◉少女小說 女浦島（石橋思案）
◉少女訓話 富有の心（三宅花圃）

◉新入學生 花袋
◉お雛樣 流人
◉摘み草 小舟
◉少女と言語 笠峰
◉少女あんま 芳子
◉少女英語 やをの

△クリスチナ女王 渚山
△子共を讀んだ歌 信綱
△冒險小說女俠姫 春浪
△庚申待 曉聲
△春の花草 晚霞
△蛤の話 天然

◉誕掛の編方 三木とみ子
◉造花の栞 白崎やをの

◉學藝室 ◉娯樂室 ◉顧問室 ◉談話室（何れも滿員の盛況）

△前金四冊卅八錢 八冊七十五錢 十六冊一圓四十錢外郵税

東京 博文館 振替貯金二百四十番

[illegible]發行（毎月五日二十日二回）（定價金三錢 一ヶ月六錢）（[illegible]）發行兼印刷人 山澤俊夫 編輯人 手島益雄 發行所 東京麹町區飯田町 愛國婦人發行所 印刷所 東京牛込區市谷加賀町 秀英舍工場

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人第百[illegible]三號

(library stamp)

明治四十年三月五日發行（每月二回五日廿日）
明治三十九年三月二十七日、第三種郵便物認可

評議員
仁尾繁子

長崎支部幹事
鶴田いわ子

東京支部幹事
渡邊げん子

發行兼印刷人　山澤俊夫　編輯人　手島益雄　發行所　愛國婦人會内愛國婦人發行所
印刷所　東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地　株式會社秀英舍第一工場

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN